

介護福祉士国家資格取得に向けた
留学生指導についてのガイドライン 別冊

介護福祉士
国家資格取得に向けた

留学生指導に についての 指導のポイント



令和4年3月

かい よろ きょう

介護協

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

内容

はじめに	3
指導のポイントの使い方	4
I. 外国人介護人材の国家試験の得点傾向・解答傾向について	5
1. 国家試験の科目別に見た留学生の特徴 ～第 33 回国家試験の得点から～	5
2. 具体的な誤答の理由について	9
II. 指導する際の前提知識	17
1. 外国人介護人材を指導すること	17
2. 講義(授業)の位置づけを考える	18
3. 指導する際の日本語の使用	27
参考. 授業の教案サンプル	36
1. 模擬授業教案について	36
2. 講義中に工夫すべき点	37
III. 具体的な指導方法	38
1. 指導全般にかかるポイント	38
2. 領域ごとの指導のポイント	45
(1)人間と社会	45
(2)介護	47
(3)こころとからだのしくみ	50
(4)医療的ケア	54

はじめに

平成 29 年(2017 年)の在留資格「介護」の創設により、介護福祉士養成施設(以下、養成校という)で学ぶ外国人留学生(以下、留学生という)の数は、増加の一途を辿っています。令和元年度以降、毎年、20 か国以上の国から 2,000 人を超える留学生が、我が国の専門職としての介護を学んでいます。その数は全国の養成校で学ぶ学生の約 3 割を占めるに及んでいます。

これら留学生の就職先についてみると、令和 3 年 3 月に卒業した留学生 1,471 人のうち 97.5%は、我が国の介護老人福祉施設など福祉施設を中心に就職しています。彼らは、今後、増加が見込まれる技能実習生や特定技能で来日する外国人介護人材への指導などにおいて、その能力を発揮することが望まれます。また、中長期の視点に立てば、我が国で培った介護福祉士としてのキャリアを母国に持ち帰る留学生も出てくるでしょう。その際、高齢化が進む諸外国において、我が国の介護が普及されていく可能性を大いに含んでいます。

一方で、入学者数に対して国家試験の合格者数を比較すると、その数が圧倒的に少ないことも、自明のことと言わざるを得ません。介護福祉士国家試験における留学生の合格率は 38.0%(令和 2 年度)と大変低く、6 割以上の留学生が国家試験に合格できていないのが実情です。

このような状況を打破するために、令和 2 年度に続き、厚生労働省の補助事業「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」として当協会の実施計画が採択され、令和 3 年度も継続して、この事業を実施することとなりました。

昨年度事業で作成した「介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導についてのガイドライン」(以下、「ガイドライン」という)では、学習支援のほか学習環境の整備など養成校に求められる対応を中心にまとめております。本年度事業で作成した「指導のポイント」は、養成校の留学生のみならず、国家試験受験対象者である EPA 介護福祉士候補者も対象とし、指導する際の前提知識や具体的な指導方法など、教員(講師)の皆様が外国人介護人材を指導するための具体的な指導の在り方をまとめております。

当協会では、指導のポイント作成にあたり、検討委員会及び作業部会を設置し、①授業参観を実施しその内容の分析、②介護福祉士養成施設教員(講師)へのアンケート調査などを行い、本指導のポイントを作成しました。授業参観及びアンケートなどにご協力いただいた皆様、検討委員会委員及び作業部会委員の皆様方には感謝申し上げます次第です。

留学生をはじめ外国人介護人材の質の向上が図れるよう、介護福祉士養成施設はもとより、関係する教員(講師)の方々に、本指導のポイントを活用いただければ、まことに幸甚に存じます。

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

指導のポイントの使い方

本書「指導のポイント」には、一口メモを多く記載しています。この一口メモは、ヒアリング調査で得られた有益な情報です。すぐに実践できる内容が紹介されていますので、ぜひ、ご活用ください。また、アンケート調査において、多くの教員(講師)が、留学生の日本語能力には差があり、理解度が低いことを承知しているが、その改善のための有効な対策がわからないという実態が明らかになりました。こうした状況を踏まえ、多くの教員(講師)の皆様が悩みながら「こういう説明でいいのだろうか」と試行錯誤のなか、授業に取り組んでおられる様子をうかがい知ることができました。

本書は、日々留学生や EPA 介護福祉士候補者への指導にご尽力いただいている教員(講師)の皆様にとって、指導の方針、見直し等を検討する際の一助となることを願って作成しております。以下、本書の構成を記載します。

図表1：指導のポイントの構成内容

章	構成内容
I.外国人介護人材の国家試験の得点傾向・解答傾向について	<p>ここでは、第33回国家試験での得点結果から数量分析を行い、合否に与える影響が高い科目などを紹介しています。(1. 国家試験の科目別に見た留学生の特徴)</p> <p>そのうえで、昨年度のガイドライン調査から留学生の生の声を活かし、具体的な誤答の理由を3題提示しています。試験対策を担当される教員(講師)をはじめ多くの教員(講師)の皆様に、役立つ内容となっています。(2. 具体的な誤答の理由について)</p>
II.指導する際の前提知識	<p>ここでは、I.で明らかとなった留学生の傾向を踏まえ、日ごろの指導全般に関して、知っておいていただきたいことを、3項目にして、まとめています。</p> <p>まず、外国人介護人材へ指導する前の心構えです。(1. 外国人介護人材を指導すること)</p> <p>次に、ご自身が担当されている科目と他科目との連携の重要性について「求められる介護福祉士像」や「第33回国家試験の得点率データ」等から示し、授業評価の積極的な導入と活用の方法を提案しています。授業参観時に使用できる記載シートのサンプルも掲載していますので、ご参考ください。(2. 講義(授業)の位置付けを考える)</p> <p>最後に、外国人介護人材に向けた日本語での指導ポイントについて、ガイドラインの記載に加え、さらに内容を充実させました。日本語の専門家がお近くにいなくても誰でもできる内容も示していますので、ぜひ、すぐにも実践してみてください。(3. 指導する際の日本語の使用)また、IIの内容を「模擬授業」という形で動画視聴ができます。教案資料と併せて、ご自身の授業の振り返りとして、ご参照いただけたらと思います。</p>
III.具体的な指導方法	<p>ここでは、外国人介護人材のI.国家試験での傾向とII.指導全般での前提知識を踏まえ、より日ごろの授業に活かせる内容を示しています。学生の理解度を上げる手段、自主学習を促す方法、日本人学生との相互交流、習熟度に差がある場合の工夫など、多様な解決方法を明示していますので、できるところから、試してみてください。(1. 指導全般にかかるポイント)</p> <p>最後に、ご自身の授業に落とし込んでいただくため、4領域ごとの指導のポイントを記載しました。科目による違いはもちろんありますが、領域ごとの特徴をまずは把握していただき、科目間連携に繋げていく基盤となることも念頭に記載しました。ぜひ、担当領域外の内容を把握するためにも、ご一読ください。</p>

I. 外国人介護人材の国家試験の得点傾向・解答傾向について

この章では、本協会が行った各種試験、調査の結果をもとに、国家試験における留学生の得点傾向・回答傾向について記載しています。日ごろの指導を行う前提として、どのような科目の理解が高いか、低いかについて、参考にいただければと思います。

1. 国家試験の科目別に見た留学生の特徴 ～第33回国家試験の得点から～



留学生指導のポイント

Point-1 授業等の机上の学習と、実習・アルバイト等の経験を結び付け、総合的な理解をしていくことが重要。

Point-2 基本的な学習を繰り返し行い、各科目の学習をしっかりと行っていくことが重要。

(1) 科目別の得点と総得点の関係

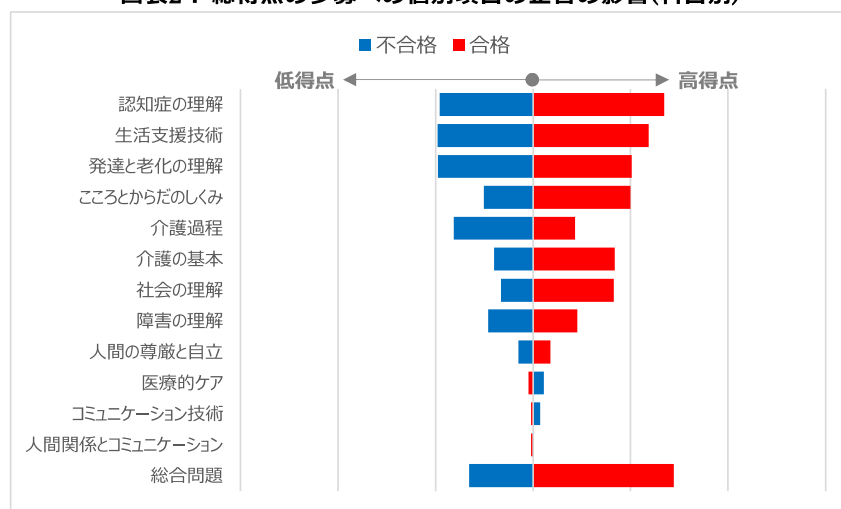
留学生の国家試験の解答傾向を知ることで、留学生の特性、理解度を把握することができ**ます**。昨年度ガイドラインでは、留学生が苦手とする科目が存在すること、日本人とでは難しいと感じる科目の傾向が異なることを示しましたが¹、ここでは、留学生の国家試験の解答について、個別科目の得点が、総得点(125点満点での点数。以下同様)にどのような影響を与えていたかについて記載します。

以下のグラフ(図表1)は、各科目の得点率において、右側の**赤色棒グラフ**の数値が大きければ大きいほど、その科目で得点できていれば合格(総得点125点中6割の75点以上)に影響し、左側の**青色棒グラフ**の数値が大きければ大きいほど、その科目で得点できていなければ不合格(総得点125点中6割の75点未満)に影響していることを表した図です。青色の棒と、赤色の棒の数値を合計したものを科目における影響度とし、影響度の大きい順(総合問題を除く)にグラフに並べています。

12科目の中では、「認知症の理解」が最も総得点に影響していることが分かりました。また、得点率の影響度の上位3科目は、「認知症の理解」、「生活支援技術」、「発達と老化の理解」となりました。

¹ 日本介護福祉士養成施設協会。留学生指導についてのガイドライン。2021, p.7

図表2：総得点の多寡への個別項目の正答の影響(科目別)



出典：外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書

赤色棒グラフを見ると、「認知症の理解」、「生活支援技術」、「総合問題」等の数値が高くなっており、**これらの科目の得点率が高い留学生は、総得点も高い**ということになります。

一方、**青色棒グラフ**を見ると、「認知症の理解」、「生活支援技術」、「発達と老化の理解」、「介護過程」等の数値が高くなっており、**これらの科目の得点率が低いと、総得点が低い**ということになります。

「認知症の理解」、「生活支援技術」、「発達と老化の理解」、「介護過程」の科目は、介護福祉士国家試験の科目の中でも、机上の学習だけでなく、介護施設・事業所等での実習・アルバイト等を通して総合的に理論と実践を学ぶ科目です。このため、これらの科目が得点できていないということは、知識と実践を結びつけて理解する力が十分ではないことが類推されます。よって、これらの科目を得点できるようになるには、後述の第Ⅱ章「2. 講義(授業)の位置づけを考える」(P18-26)でも説明していますが、**授業等の机上の学習と、実習・アルバイト等の経験を、どのように結び付けて総合的な理解をしていけるか、という点が重要 Point-1**です。実習やアルバイトでの経験を具体的に示し、授業の内容に結び付ける等、教員(講師)の皆様におかれましてはご工夫いただければと思います。

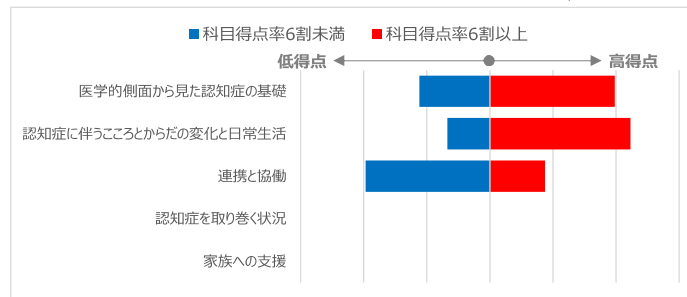
また、「総合問題」においては、科目全般的な理解が必要、かつ事例問題であることから一定以上の日本語読解力も有していないと得点できないといった問題特性があります。しかし、「総合問題」の**青色棒グラフ**を見ると、「認知症の理解」、「生活支援技術」、「発達と老化の理解」、「介護過程」などが総得点に与える影響より小さい結果となっています。これが意味することとして、総得点を上げるためには、まずは、**青色棒グラフ**の数値が高い「認知症の理解」、「生活支援技術」、「発達と老化の理解」、「介護過程」などの科目で得点できることが重要であるといえ、**基本的な学習を繰り返し行い、各科目の学習をしっかり行っていくことが必要 Point-2**と考えられます。

(2) 合否にあたる影響が高い科目について

「(1)科目別の得点と総得点の関係」で述べた科目のなかで、科目の得点率が低いと総得点も低くなる傾向にある「認知症の理解」、「生活支援技術」、「発達と老化の理解」、「介護過程」の4科目について、大項目別に傾向を見ていきます。

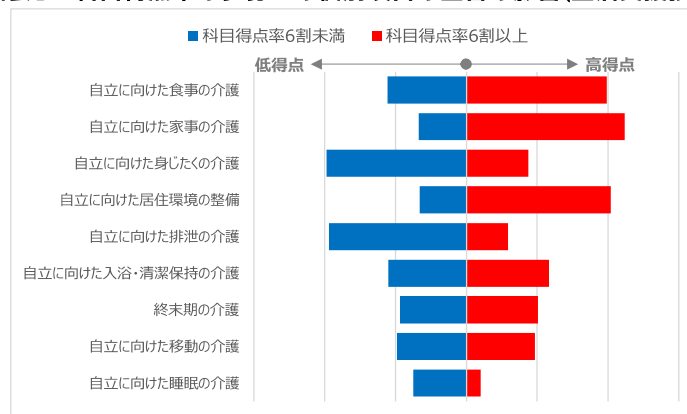
以下の表は、それぞれの科目合計得点率に、各大項目の得点がどれほど影響しているかを表したものです。右側の**赤色棒グラフ**の数値が大きければ大きいほど科目合計得点(高得点)に影響し、右側の**青色棒グラフ**の数値が大きければ大きいほど科目合計得点(低得点)に影響する形となります。なお、第33回国家試験に出題されていない大項目については、項目のみの表示となり、グラフの作成はしていません。

図表3：科目得点率の多寡への個別項目の正答の影響(認知症の理解)



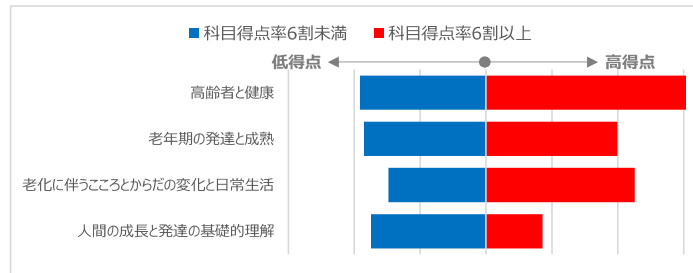
出典：外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書

図表4：科目得点率の多寡への個別項目の正答の影響(生活支援技術)



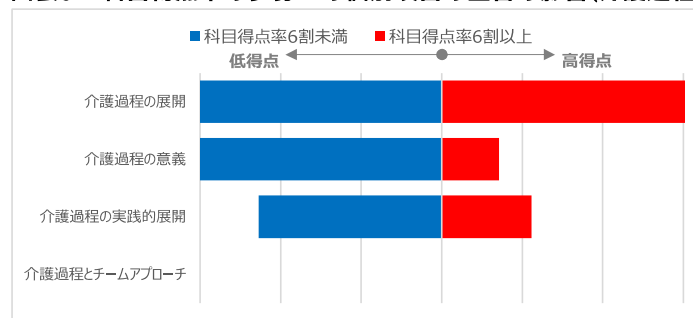
出典：外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書

図表5：科目得点率の多寡への個別項目の正答の影響(発達と老化の理解)



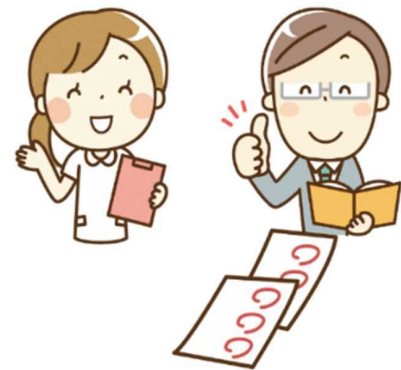
出典：外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書

図表6：科目得点率の多寡への個別項目の正答の影響(介護過程)



出典：外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書

上記のグラフの通り、大項目別に見ても、傾向は異なっています。「認知症の理解」、
 「生活支援技術」については、大項目別の影響度の差が見られますが、**「介護過程」については、どの大項目も科目合計得点(低得点)に与える影響が大きいことから、得点できている留学生は全問正解しているものの、得点できていない学生は全問不正解であった傾向が強いことがうかがえます。**この点、大項目ごとの影響については、ご自身の学校の得点傾向と比較し、**各大項目レベルでの学習状況と留学生個々の理解度の確認をいただき、理解度が低い項目においては、なぜ低いのか、どのようにすれば理解度を上げられるか、との点をご検討ください。**



2. 具体的な誤答の理由について

ここでは、誤答の理由を確認するための方法のひとつとして、前項「1. 国家試験の科目別に見た留学生の特徴～第33回国家試験の得点から～」に掲載した、第33回介護福祉士国家試験問題での合否にあたる影響が高い3科目「認知症の理解」「生活支援技術」「発達と老化の理解」について、具体的な誤答の理由²を探ってみることにします。なかでも、日本人学生での正答率が9割を超えた一方、留学生の正答率がそれを大きく下回る結果となった問題を抽出し、誤答の理由を解説します。解説においては、昨年のガイドライン巻末参照編第32回国家試験 誤回答の分析に基づいて、2つの概念に区分し、説明していきます。

- ①介護の知識及び日本文化などに関する誤答の傾向
- ②日本語に関する誤答の傾向

(1) 「認知症の理解」の問題に関する誤答

第33回 介護福祉士国家試験問題 問題79

●問題文

日本での認知症(dementia)に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

●選択肢

1. アルツハイマー型認知症(dementia of the Alzheimer's type)以外の認知症(dementia)の患者数が増加している。
2. アルツハイマー型認知症(dementia of the Alzheimer's type)の有病率は、男性より女性が高い。
3. 年齢が若いほど、認知症発症のリスクが高い。
4. 生活習慣病(life-style related disease)と認知症発症には関連がない。
5. 運動は認知症予防に無効である。

正答：2

●回答データ

日本人学生（人）							外国人留学生（人）								
全体数	正答者数	正答率（%）	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5	全体数	正答者数	正答率（%）	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5
1,538	1,446	94.02	67	1446	8	10	7	514	402	78.21	64	402	20	13	13

² 誤答理由については、昨年度ガイドラインに記載した「巻末参照編 令和元年度国家試験 誤回答の分析」(pp.47-83)を参考に、事務局にて類推して記載しています。

① 介護の知識及び日本文化などに関する誤答の傾向

アルツハイマー型認知症の発症が女性に多いという知識は、科目「認知症の理解」のなかでも、基本事項と言えます。これは、第 32 回問題 83「前頭側頭型認知症の症状のある人への対応」での誤答理由³、「前頭側頭型認知症の名前は知っていたが、症状までは把握していなかった」から推測して、認知症の主要な原因疾患 4 つの名称はわかるが、各々の特徴的な症状までは、整理しきれていないことが想像できます。その裏付けとして、第 32 回問題 80「認知症の初期症状」を問う設問での誤答理由⁴からも、「認知症の分類は理解していたが、具体的な症状が認知症の分類と照合できていなかった」という声があがっています。

次に、誤回答として最も多かった選択肢 1 の問題は、中項目「認知症のある高齢者の現状、今後」に関する知識が問われていると考えられます。そのため、日本の人口動態などを含めた高齢化の現状など、科目「社会の理解」に関する知識なども必要になってくるでしょう。

以上のことから、この問題では、「認知症の原因疾患と症状、それにともなう生活障害」などの専門知識に不足があることが、誤答につながったのではないかと考えられます。

一方で、第 32 回問題 80「認知症の初期症状に関する記述」の誤答理由⁵には、「全くわからない」「内容がディープすぎて理解できなかった」という声も挙げられています。これらの誤答理由の背景には、留学生の主な出身国での平均寿命や中央年齢が関係しているのではないのでしょうか。

平均寿命について、少しイメージをしてみてください。

我が国の平均寿命の高さが世界トップクラスであることは言うまでもありませんが、留学生の出身国の平均寿命は、総じて高位ではないケースが多いことが想定されます。各国の平均年齢⁶をみても、我が国の平均年齢が 40 歳代後半であるのに対し、中国が 30 歳代後半、ベトナムが 30 歳前後、ネパールに至っては 20 歳代前半です。

日本では、新聞やテレビなどで認知症について目にする機会が多く、また近年では、小中学校の授業でも高齢者や認知症のある方について理解する機会もあります。一方で、留学生の多くの国では、介護を要する多様な高齢者と触れ合う機会がごく少ないことがうかがわれます。これらの事柄を、私たち介護教員(講師)は事前に把握しておく必要があります。

科目「認知症の理解」導入初期の段階では、視聴覚教材などを使用して、留学生にもイメージしやすい工夫と、繰り返し丁寧な説明が求められることが想定されます。

³ 日本介護福祉士養成施設協会. 留学生指導についてのガイドライン. 2021, p.61

⁴ 日本介護福祉士養成施設協会. 留学生指導についてのガイドライン. 2021, p.61

⁵ 日本介護福祉士養成施設協会. 留学生指導についてのガイドライン. 2021, p.61

⁶ 国立社会保障・人口問題研究所. 人口統計資料集. 2021,

https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2021.asp?fname=T02-14.htm, (参照 2021-12-23)

② 日本語に関する誤答の傾向

正答選択肢2「有病率」は、「病気になっている人の割合(%)」と言い換えることができます。こうした言い換えができる程度の日本語能力がある留学生の場合、不明語彙は少ないことも予想されます。こうした方法は、日本語能力試験(JLPT・N2レベル)で問われている【文字・語彙】>(言い換え類義)という日本語能力が備わっているかということにも通じています。一方で、日本語能力試験(JLPT)にこだわらず、漢字圏の留学生であれば理解できる可能性も高いでしょう。

国家試験においては、こうした漢語的表現に言い換えられた問題は頻出されています。第32回問題81「認知症の発症リスクを低減させる行動」という設問文にある「低減」という単語についても、それに該当します。昨年の聞き取りにおいて、多くの留学生が「低減」を不明語彙としており、「問題がわからないので、質問を間違う」とも答えています⁷。こうした漢字語彙の捉え方については、昨年のガイドラインにも記載⁸をしています。ぜひ、ご参照ください。

最後に、この問題は、決して漢字が苦手な留学生には答えられないというものではありません。正答選択肢2を取り上げてみると、「アルツハイマー型認知症・男性より女性・高い」は、「専門用語・N4レベルの比較級・N5レベルのイ形容詞」という平易な語彙等で構成されています。このことから、N2相当でなければ歯が立たないというわけではなく、やはり、「アルツハイマー型認知症」に関する基礎知識の有無が、正答を導けるかに関係していると言えるでしょう。



⁷ 日本介護福祉士養成施設協会. 留学生指導についてのガイドライン. 2021, p.77

⁸ 日本介護福祉士養成施設協会. 留学生指導についてのガイドライン. 2021, p.44

(2) 「生活支援技術」の問題に関する誤答

第 33 回 介護福祉士国家試験問題 問題 49

●問題文

自己導尿を行っている利用者に対する介護福祉職の対応として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

●選択肢

1. 座位が不安定な場合は、体を支える。
2. 利用者が自己導尿を行っている間は、そばで見守る。
3. 利用者と一緒にカテーテルを持ち、挿入する。
4. 再利用のカテーテルは水道水で洗い、乾燥させる。
5. 尿の観察は利用者自身で行うように伝える。

正答：1

●回答データ

日本人学生（人）								外国人留学生（人）							
全体数	正答者数	正答率（%）	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5	全体数	正答者数	正答率（%）	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5
1,538	1,399	90.96	1399	79	10	32	18	514	266	51.75	266	121	28	52	45

① 介護の知識及び日本文化などに関する誤答の傾向

この問題では、設問文にある「自己導尿」が何か理解できていない可能性が極めて高いことが想定されます。「自己導尿」に関する知識としては、「自己導尿が必要な利用者に対して介護福祉職として行うことができる行為」の理解が問われます。導尿が必要な利用者に対する支援には、看護師などが担う医療的な部分と、生活支援として介護福祉職が担う部分があります。こうした医療の領域と、介護福祉職として行うことができる行為との整理ができていないことが求められます⁹。「自己導尿」以外にも座薬挿入・浣腸・ストーマなど他の排泄介助においても同じことが言えるでしょう。

以上のことから、「自己導尿が必要な人に対して看護職との連携や介護福祉職として行うことができる行為」に関する知識不足が、答えを正しく選択できなかった理由のひとつに挙げられるでしょう。

第 32 回問題 51「膀胱留置カテーテルを使用している利用者への介護福祉職の対応」での誤答理由をみると、同様に、上記の点で知識不足が生じていることが類推できます。第 32 回問題 51・選択肢 5「尿量の確認は看護師に依頼する」（誤回答）とした理由として、「なんでも看護師にやってもらった方が良いと思っている」という記載があります。この間

⁹ 介護福祉士養成講座編集委員会. 最新 介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」. 第 4 章第 2 節, 中央法規出版, 2022, p.201

き取り理由から、介護福祉職として行える行為に関する専門的な学びの獲得には、未だ達していないことがうかがえます。

最後に、選択肢 4 について触れておきたいと思います。この誤回答を選んだ日本人学生は、わずか 2% 程度だったのに対し、留学生では約 10% が「水道水で洗い、乾燥させる」と回答しました。この差の背景には、衛生公衆上の概念違いが挙げられるかもしれません。

しかしながら、自己導尿が必要な人などの介護を行うときには、専門的な知識に基づく「清潔不潔の概念」を学習することが必須です。そのため、文化の違いに着目するだけでなく、専門的な知識として理解されることが重要と言えるでしょう。この設問の場合では、科目「介護の基本」における感染症対策、あるいは、科目「医療的ケア」における清潔保持といった他科目と関連づけた学習の必要性があると考えられます。

② 日本語に関する誤答の傾向

回答データから、留学生 121 名(約 24%)と多くの学生が、選択肢 2 に流れた点は、第 32 回問題 51「膀胱留置カテーテル」に関する設問での誤答理由「(集中力が低下して)問題文をしっかりと読んでいなかった」から、この設問においても同様の理由が類推できます。おそらく、前文は読み飛ばし、後半部分「そばで見守る」のみで判断し、回答したのではないかと想定されます。



(3) 「発達と老化の理解」の問題に関する誤答

第 33 回 介護福祉士国家試験問題 問題 73

●問題文

意欲が低下した高齢者の動機づけに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

●選択肢

1. 高い目標を他者が掲げると、動機づけが強まる。
2. 本人が具体的に何をすべきかがわかると、動機づけが強まる。
3. 本人にとって興味がある目標を掲げると、動機づけが弱まる。
4. 小さな目標の達成を積み重ねていくと、動機づけが弱まる。
5. 本人が自分にもできそうだと思う目標を掲げると、動機づけが弱まる。

正答：2

●回答データ

日本人学生（人）								外国人留学生（人）							
全体数	正答者数	正答率（%）	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5	全体数	正答者数	正答率（%）	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5
1,538	1,471	95.64	23	1471	23	11	10	514	287	55.84	29	287	84	29	84

① 介護の知識及び日本文化などに関する誤答の傾向

「やる気が出ない」「気分が乗らない」などの表現は、日常会話のなかでも使用されますが、設問文にある「意欲が低下した」や「動機づけ」という用語は、専門的知識の有無が問われる内容と言えるでしょう。国家試験のなかでも、「動機づけ」に関連した事項は、頻出問題と言えるでしょう。具体的に、「動機づけ」を学ぶ科目としては、「コミュニケーション技術」¹⁰や「発達と老化の理解」¹¹が想定されます。

では、ここで、第 32 回問題 28「意欲低下」（科目「コミュニケーション技術」）に関する誤回答理由を参考に考えていきます。

この問題では、意欲低下した人とのコミュニケーションの基本的姿勢が問われています。誤選択肢1「考え方をえるように促す」に対して、ある留学生は、「気分転換することだと思った」と回答しました¹²。昨年のガイドラインでは、この誤回答理由を日本語の知識不足と分類していますが、必ずしも、日本語能力の不足だけが要因とは考えられません。なぜなら、「考え方をえる=気分転換をする」とする理解は、遠からず日本語を理解しているとも言えないからです。ですから、ここでの知識不足は、高齢期にみられる喪失感や生

¹⁰ 介護福祉士養成講座編集委員会. 最新 介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」. 第2章第3節1, 中央法規出版, 2022, p.40

¹¹ 介護福祉士養成講座編集委員会. 最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」. 第4章第2節4, 中央法規出版, 2022, p.155

¹² 日本介護福祉士養成施設協会. 留学生指導についてのガイドライン. 2021, p.70

活の不活発さなどを起因とする「意欲低下」が何であるのか、その理解が不足しているとも考えられるのではないのでしょうか。

また、正答である選択肢 4「意欲低下の背景を考える」に対して、「介護福祉職が行うアセスメントの意義がわからない」との誤回答理由を挙げた留学生がいました¹³。この記述から類推すると、科目「介護の基本」での ICF の考え方、あるいは、科目「介護過程」でのアセスメントに関する知識不足についても、言及することができるでしょう。

ここまで、第 32 回問題 28「意欲低下」に関する誤回答理由を紹介してきました。これらは、第 33 回問題 73 が、留学生にとって低い正答率になったことと直結しているわけではありません。しかしながら、高齢期特有の「意欲低下」に関する知識の有無によって、その改善に向けて、どんな事柄が「動機づけ」の強弱に影響を与えるのかを理解する手がかりにもなりうるでしょう。

このように考えていくと、専門用語の理解は、単に言葉の意味が分かればよいというのではなく、関連する近接領域との包括した理解を定着させることが、大いに重要だと考えられるでしょう。

最後に、「動機づけ」に関する日本人学生の正答率は、95.6%と大変高位でした。このことは、日本の社会が、幼少期から目標設定し、その達成に向け努力する過程を当たり前のように受け入れていることが、大きく影響しているのかもしれませんが。そのため、教える側もモチベーションに関する事項は、学生にある程度の知識が備わっているという前提で、授業が展開されてしまっている可能性が考えられます。

② 日本語に関する誤答の傾向

この問題は、日本人学生にとって難しい問題ではありませんでしたが、留学生にとっては、正答率 5 割を少し超える程度の結果となりました。その原因を日本語の構文という側面から、考えてみたいと思います。

まず、選択肢の文は「～と・～たら・～ば・～なら」という条件を表す表現のうち、「～と文」が使用されています。この「～と文」表現が何を意味するのか理解できていれば、選択肢 1～5 の違いを瞬時に読み解くことが可能だったかもしれません。

次に、「～と文」の代表的な例文ですが「まっすぐ行くと、駅があります」や「このボタンを押すと、お湯が出ます」のように、道案内や機械の使い方などの説明文に多くあります。こうした日本語文法に関わる知識が定着していれば、「前文 A という条件によって、後文 B = 動機づけが強くなる、あるいは、弱くなる」という形式の表現であることが理解できます。そのため、これら選択肢での重要箇所は後述であること、また、後述が成立するために前文の条件文を読む必要がある、という回答までの道筋が立てられます。

¹³ 日本介護福祉士養成施設協会、留学生指導についてのガイドライン、2021、p.54

_____は、 A が B である。

👉 後述部分が重要！！

こうした日本語文法の知識がない場合、構文の仕組みから読み解くことができず、素直に左から右へと読み進めてしまうこととなります。結果として、誤選択肢「3.本人にとって興味がある目標を掲げる」や誤選択肢「5.本人が自分にもできそうだと思う目標を掲げる」という、前文の条件節だけを読んで、回答してしまったことが考えられます。

国家試験の受験対策として、「問題文は最後まで読む」その後「間違っている文言を消す」という方法を、すでに指導されている教員(講師)もおられるでしょう。こうした日本語を読み解く力が不足していると、留学生に限らず日本人学生においても、最後まで読まない・読めない学生では、点数が伸び悩む傾向があると言えるでしょう。

最後に、構文以外にも、この問題では「動機づけが強まる/弱まる」といった対義語が使用されています。「強/弱」では意味が全く反対になることは言うまでもありませんが、生活支援技術などの演習中、浅く座る場面で、誤って深く座ってしまう留学生はいないでしょうか。頭の中で理解していても、このような勘違いは、留学生の特徴として想定されるかもしれません。第32回問題42の誤答理由のなかにも「前方・後方の解釈を間違えた」という声が記載されています¹⁴。



¹⁴ 日本介護福祉士養成施設協会、留学生指導についてのガイドライン、2021、p.72

Ⅱ. 指導する際の前提知識

この章では、介護教員(講師)の皆様が、外国人介護人材に対して指導を行う際、前提として認識しておいていただきたいことについて記載しています。ご自身が日ごろ意識されている事柄と相違ないかをご確認いただき、ご指導の際に実践いただければと思います。

1. 外国人介護人材を指導するということ



留学生指導のポイント

Point-1 日本人である教員(講師)が「当たり前」と考える一般常識などでも、外国人の方にとっては「当たり前」でないこともある。また、外国人の方が考える「当たり前」も、日本人にとってみれば「当たり前」でないこともある。

Point-2 どのようなことが分かり、どのようなことが分からないかについて、個別性を鑑み指導していく必要がある。

外国人介護人材を指導される際、そもそも、外国人として日本に来日される外国人の方に対して指導するということは、どのようなことかを理解することが重要です。

日本語で意思疎通することが難しいということは当然想定されるでしょうが、それだけではなく、一般常識など、私たち日本人が「当たり前」と思うことも、外国人の方にとっては「当たり前」でないことがあることを理解することが重要です。逆にいえば、外国人の方にとっての「当たり前」は、私たち日本人にとって「当たり前」でないこともあるかもしれません **Point-1**。例えば、「介護」という概念が一般国民に理解されていない国から来日する方もいるでしょうし、体の機能、食事の考え方、健康に対する捉え方など、様々な考えをお持ちの方がいます。

このため、一般的に「知っているだろう」と思って指導すると、前提知識の違いから、授業内容の理解が進まないことが想定されます。ただこれは、外国人介護人材の方に限った話ではなく、日本人学生においても同様です。

このため、外国人/日本人、とまったくくりで考えるのではなく、どのようなことを分かっているのか、何が分からないのかについて、細かく理解しながら、学生の個別性を踏まえた指導をしていくことが重要 **Point-2** です。



一口メモ：外国人介護人材を受け入れるということ

留学生を受け入れて指導をしているが、特に国ごとによって介護の理解がしにくいということはない。日本ではこのような考え方である、ということをお話して理解してもらえばよいし、実際に理解してもらっている。ただ、それぞれの留学生の母国ではどうか？と質問を投げかけるようにしている。日本はこういった国だからというのを押し付けるのではなく、それぞれの母国の状況も聞き、親近感を持ってもらえるように話を進めることで、理解が進むと感じている。

【国試合格率が高い養成校教員(教務主任)の声】

2. 講義(授業)の位置づけを考える



留学生指導のポイント

- Point-1** 日本語能力試験での取得レベルだけで判断するのではなく、留学生一人ひとりの個別性に
応じた日本語能力や学習能力をあらかじめつかんでおくことが重要。
- Point-2** 1つの科目ではなく、科目間連携を前提に、基礎から応用へと体系的に習熟できている
か確認しながら指導することは、学生の考える過程において大切な視点である。
- Point-3** 科目間連携の重要性、基礎から応用への体系的な習熟の必要性は、実際の国家試験デー
タでも立証されている。

(1) カリキュラム全体の構成における留意点と科目間連携

平成 29 年社会保障審議会報告書¹⁵を踏まえ、養成校では、介護福祉教育の指針である「求められる介護福祉士像」(以下図表 7)に即した新たな教育が展開されています。

この新しい教育が実を結ぶためには、養成教育に携わる教員(講師)一人ひとりが、教育課程全体の構成を正しく把握することが必要です。そのうえで、ご自身が担当されている領域や科目において、学生に何を習得してもらおうのか計画・実践していくことが重要です。

¹⁵ 厚生労働省. 介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて. 2017, https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf, (参照 2021-12-01)

図表7：求められる介護福祉士像

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・住宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う

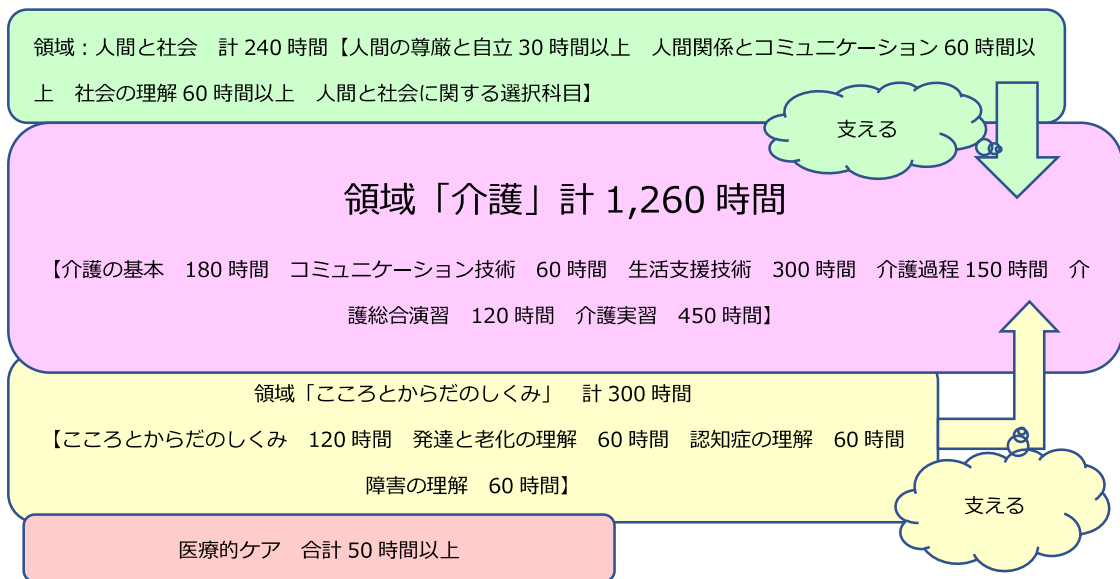


高い倫理性の保持

出典：介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて

では、教育課程の全体を改めて、確認していきましょう。養成教育課程は、3領域「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」と医療的ケアの4つで構成されています。それを図式化してみると、以下のようになります。

図表8：養成教育課程の図



出典：「介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けた研修」—科目 3.

ご覧の通り、領域「介護」の時間数は全体の7割近くを占めており、養成教育において最大の柱となります。この太い柱を支えるのが、領域「人間と社会」「こころとからだのしくみ」です。いずれにおいても、単一科目で専門的な知識や技術が習得できるものではないという視点を忘れないください。1つ1つの科目が互いにつながり、その先に、複数科目が相互につながって、まとまりを持った全体を形成する科目が統合されることをイメージしてください。

とりわけ、留学生をはじめとする日本語を母語としない学生に向けた授業計画では、以下の2点に気を付けることが肝要です。

① 学習者の日本語能力や学習能力を事前に把握する

日本語能力試験で N2 や N3 の認定を受けているということでも一定程度判断できますが、どの程度の日本語を使うことができるか、また勉強に対してどの程度モチベーションを保てるか、また話したことをどの程度理解できるかといった理解度、様々な事柄を総合的に判断する必要があります。

なお、日本語能力と言っても、「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」など、科目や授業内容によって、日本語を使用するシーンは異なります。具体的に、本冊子作成にあたり授業参観を行った養成校のうち3校での授業場面を取り上げてみます。

図表9：学習者に求める日本語能力の例示

参観科目	内容
例1. 科目「老人福祉論」 ～授業内容：介護保険制度について～	制度のしくみや歴史の変遷などを学ぶ場面が多く想定されます。学生には、教員(講師)の解説を聞きながら、 <u>板書された文字を素早くノートに書き写す能力</u> が必要です。
例2. 科目「生活支援技術」 ～授業内容：グループワーク形式での演習～	演習では、介護技術を体現することが求められます。“見て真似る”ことが得意な留学生は多いのですが、決して手順通りに行えばよいわけではありません。 <u>介護の根拠を他者に説明・発言できる能力</u> が必須となります。
例3. 科目「介護過程」 ～授業内容：アセスメントについて～	事例文から情報収集し、ICFシートのどこに該当するのか、関連づけ・分析する能力が求められます。 <u>日本人にとって日常的に使うやさしい日本語だと思われる言葉(例「エスカレーター」「リュックサック」など)を知らない留学生が意外に多いことも、事前に把握しておく</u> とよいでしょう。

このように、学生に求められる日本語能力や学習能力は、授業の方法や達成目標によって異なります。書くことは苦手でも発表となれば力を発揮できる留学生もいるでしょうし、書くことは得意であるが話す力はあと一歩、という留学生もいるでしょう。そのため、日本語能力試験での取得レベルだけで判断するのではなく、留学生一人ひとりの個別性に応じた日本語能力や学習能力をあらかじめつかんでおくことが重要 **Point-1** になります。

領域ごとに気をつけたい指導ポイントについては、「Ⅲ.2.領域ごとの指導のポイント」に詳しく記載しています。是非そちらをご覧ください、授業計画や準備に役立てていただきたいと思います。

② 基礎から応用への習熟度合いを把握する

留学生に限らず全ての学生を対象に言えることですが、**基礎から応用へと体系的に習熟できているか確認しておく**ことは重要です。特に、日本語能力に向上が見受けられない留学生の場合、日本語が最大の壁となり、介護の専門性の習得が進んでいるかという点に着目することはおろそかになってしまいがちです。

2年間の養成課程は、1年前期・後期から2年前期・後期へ、その間に実習Ⅰ・実習Ⅱ-①②¹⁶を段階的に経験して、「求められる介護福祉士像」を目指しています。その過程において、知識や技術は基礎から応用へと進み、その統合化は複合的になっていきます。3つの例¹⁷から、具体的にみていきましょう。

図表10：基礎から応用への具体的な授業内容の例示

ポイント	内容
例1. 基礎 食事の介助方法～2科目の連携・統合～	食事介護の実技は、科目「生活支援技術」の演習にて実施されます。この演習項目の前に、科目「こころとからだのしくみ」にて『食べるしくみ』を学んでおきます。『誤嚥を防ぐには、前かがみの姿勢が重要』という根拠を知っておけば、学生の演習での理解は促進されることでしょう。このように、座学にて根拠を理解したうえで演習を行うという流れがあると、学生は演習内容の根拠がわかり、利用者主体の介護実践につながっていくと考えられます。
例2. 応用 実習前指導～複数科目の連携・統合～	介護総合演習では、科目ごとに学んだ知識や技術の統合がさらに期待されます。具体的に実習前指導を想定して、『物盗られ妄想のある利用者への接し方』を学ぶ場合、次のような複数科目からの知識や技術の連携・統合が考えられます。 まず、科目「認知症の理解」で認知症ケアの基礎的な知識を習得していることがポイントとなります。次に、科目「人間の尊厳と自立」で利用者の尊厳について学んでいることも重要でしょう。そして、これら領域「こころとからだのしくみ」と「人間と社会」で学んだ知識を基に、領域「介護」での科目「コミュニケーション技術」「介護の基本」「介護過程」を通じた学びが根拠となっていきます。こうした複数科目の知識や技術の連携・統合によって、利用者に対する「財布がなくなってお困りなのですな」という声かけが自然に表現されていくと考えられます。
例3. 応用 介護過程～アセスメント～	実習の最終となる実習Ⅱ② ¹⁶ では、実際に介護計画を立案・実践・評価する課題が設定されています。実習の集大成ともいえる段階での複数科目からの知識や技術の連携・統合について、具体例として利用者Aさんを取り上げ、考えていきます。 はじめに、利用者Aさんとの初対面での様子です。車いすを使用するAさんは、気分の浮き沈みがあるものの笑顔も見受けられ、握手を求めると挨拶しながら右手を出してくれます。左側への傾斜と左眼球の上向きが見られ、左上肢は動かないようです。 この状況から、感情失禁が想定されますが言語障害はなく右利きであること、右脳の脳血管障害による左片麻痺・眼球固定・左半側空間無視などの障害が予測できます。これらは、科目「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」「障害の理解」「生活支援技術」で学んだ知識の統合と言えます。 さらに、アセスメントを進めていくと、次の4点もわかってきます。

¹⁶ 実習の名称や実施時期・内容などは、各養成校によって異なります。ここでは、一般的な形式名称を使用して、表記しております。

¹⁷ 津田理恵子、「介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けた研修」研修概要及び科目別資料集 I 新カリキュラムに関すること
3. カリキュラムツリー作成～学びの流れと科目間連携～、令和2年度社会福祉推進事業 介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業、2021

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちの落ち込みがある場合、話題を変えたり励ましたりせず傾聴・受容する ・ 声をかけるときは右側から声をかけ、目線を合わせる ・ 右手で行う ADL は見守りや声掛けで行える可能性がある ・ 左半側空間無視による事故などが起きないように注意が必要である <p>追加されたこれら 4 点の項目は、科目「コミュニケーション技術」「介護の基本」で学んだ知識が、さらに統合されています。こうした関連づけによって生活課題が明確となり、「日中何か楽しみとなる活動があれば、A さんらしく暮らせるのではないか」との考えに至り、目標設定に近づいていきます。加えて、A さんの環境因子や個人因子の情報を収集し、日中の過ごし方には他の利用者との交流も含めて模索していこうと、介護過程の実践は進んでいきます。最終的に全体のアセスメントから導いた方向として、「苦痛なく安全に日々の生活が送れる。生活の中に楽しみがもてる」という目標を掲げることができま</p>
--	--

ここまで、具体的に 3 つの例から、2 年間の養成課程が基礎から応用へと体系的に深化し、複数科目の統合によって、「求められる介護福祉士像」という目標の達成につながることを説明してきました。

表にすると、以下のようになります。

図表11：基礎から応用についての具体例と科目との関連

領域	科目	例1	例2	例3
人間と社会	人間の尊厳と自立		●	
	人間関係とコミュニケーション			
	社会の基本			
介護	介護の基本		●	●
	コミュニケーション技術		●	●
	生活支援技術	●		●
	介護過程		●	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解			●
	認知症の理解		●	▲
	障害の理解			●
	こころとからだのしくみ	●		●
医療的ケア				

基礎 → 応用

出典：津田(2021)の内容を基に本協会にてグラフ作成

このように、1つの科目ではなく、科目間連携を前提に、基礎から応用へと体系的に習熟できているか確認しながら指導することは、学生の考える過程において大切な視点 **Point-2** となります。こうした視点を持つ介護教員(講師)からの指導によって、学生が思考過程の展開を積み重ねていくことが、利用者一人ひとりに合わせた生活支援や介護の実践につながっていくこととなります。

科目間連携については、次項「II.1.(2)国家試験における科目間の関連性と教育現場で行われている科目間連携」に詳しく記載しています。是非そちらをご覧ください、授業計画や準備に役立てて頂きたいと思えます。

(2) 国家試験における科目間の関連性と教育現場で行われている科目間連携

前項で述べた通り、科目間連携を前提に、基礎から応用へと体系的に習熟できているか確認しながら指導することは大変重要なポイントです。むしろ、介護を体系的に学習するには、科目間連携は必須であると言えます。ここでは、科目間の得点率の関係性が実際の国家試験データ上でどのような傾向になっているか、また現場でどのような科目間連携が特に行われているか、本協会が行った調査結果をもとに説明していきます。

① 国家試験の得点率で確認する科目間の関連性

実際に国家試験の得点率のデータにおいて、科目同士の影響度がどの程度あるかについて見ていきましょう。

図表12：科目間の得点率の相関係数(高数値が赤、低数値が青)

	人間の尊厳と自立	人間関係とコミュニケーション	社会の理解	介護の基本	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護過程	発達と老化の理解	認知症の理解	障害の理解	こころからだのしくみ	医療的ケア	総合問題
人間の尊厳と自立	1.00	0.26	0.26	0.25	0.23	0.28	0.27	0.22	0.28	0.21	0.22	0.16	0.20
人間関係とコミュニケーション	0.26	1.00	0.31	0.26	0.16	0.34	0.25	0.30	0.29	0.26	0.31	0.18	0.27
社会の理解	0.26	0.31	1.00	0.58	0.52	0.61	0.53	0.57	0.56	0.49	0.55	0.46	0.50
介護の基本	0.25	0.26	0.58	1.00	0.52	0.60	0.50	0.52	0.48	0.44	0.47	0.45	0.43
コミュニケーション技術	0.23	0.16	0.52	0.52	1.00	0.66	0.61	0.54	0.57	0.55	0.53	0.52	0.54
生活支援技術	0.28	0.34	0.61	0.60	0.66	1.00	0.66	0.65	0.64	0.63	0.65	0.54	0.62
介護過程	0.27	0.25	0.53	0.50	0.61	0.66	1.00	0.59	0.57	0.56	0.58	0.50	0.58
発達と老化の理解	0.22	0.30	0.57	0.52	0.54	0.65	0.59	1.00	0.64	0.56	0.62	0.51	0.56
認知症の理解	0.28	0.29	0.56	0.48	0.57	0.64	0.57	0.64	1.00	0.57	0.64	0.49	0.60
障害の理解	0.21	0.26	0.49	0.44	0.55	0.63	0.56	0.56	0.57	1.00	0.56	0.49	0.54
こころからだのしくみ	0.22	0.31	0.55	0.47	0.53	0.65	0.58	0.62	0.64	0.56	1.00	0.57	0.59
医療的ケア	0.16	0.18	0.46	0.45	0.52	0.54	0.50	0.51	0.49	0.49	0.57	1.00	0.49
総合問題	0.20	0.27	0.50	0.43	0.54	0.62	0.58	0.56	0.60	0.54	0.59	0.49	1.00

- ※ 相関係数= 0.7~1 かなり強い相関がある
- ※ 相関係数= 0.4~0.7 相関あり
- ※ 相関係数= 0.2~0.4 弱い相関あり
- ※ 相関係数= 0~0.2 ほとんど相関なし

出典：外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書

上表(図表12)は、第33回介護福祉士国家試験のデータにおける留学生の得点のうち、科目別得点率について、12科目それぞれの相関を確認したものです。

表で赤くなっているところほど、該当の科目との相関が高い=その科目の得点が取れていると、他の科目も取れている、もしくはその科目の得点が取れていなければ、他の科目の得点も取れていない、ということになります。

この表で見ると「生活支援技術」が、最も多くの他科目と試験結果の得点率において相関がある結果となっています。つまり、「生活支援技術」で得点を取れている留学生は、その他の科目でも得点が取れているということです。逆に言えば、「生活支援技術」で得点を取れていなければ、その他の科目でも得点が取れていない、ということになります。

「生活支援技術」は、その他科目の理解ができていることを前提に、どのような生活支援をしていくかを学ぶ項目です。前項で述べた通り、基礎から応用へと体系的に習熟できないと得点できない科目であり、実際の国家試験データにおいても、体系的な習熟の重要性が示された Point-3 こととなります。

なお、「人間の尊厳と自立」、「人間関係とコミュニケーション」は青色が目立ちますが、この分析では得点率の割合で確認しており、もともとの設問の科目数が少ないため、正確な確認ができにくかったと考えられます。他科目と連携する必要がない科目である、ということではありませんのでご注意ください。

② 教員(講師)が行う科目間連携

では、実際に教員(講師)間では、どのような科目が良く連携されているのでしょうか？

以下(図表 13)は、実際の調査で教員(講師)が良く連携している科目を回答いただき、その結果を集計し、連携されている科目でランキング化したものです。

最も連携されている科目は「12科目すべて」でしたが、その次に「生活支援技術とところとからだのしくみ」が多くなっています。全科目に関連性を持たせて指導を行うことは重要ですが、2科目、3科目など、特に詳しく連携して指導をされている実態がうかがえます。

教員(講師)の皆様におかれましては、ご自身の担当科目や所属する養成校等のカリキュラムを踏まえ、どのように連携していくべきか、お考えいただければと思います。

図表13：科目間連携の科目組み合わせパターン(上位 10 組)

順位	連携科目
1位(7.2%)	12科目すべて
2位(5.8%)	生活支援技術/ところとからだのしくみ
3位(4.7%)	社会の理解/介護の基本
3位(4.7%)	生活支援技術/介護過程
5位(4.3%)	介護の基本/生活支援技術
6位(3.6%)	介護の基本/生活支援技術/介護過程
7位(2.9%)	医療的ケアを除いた 11 科目すべて
7位(2.9%)	人間関係とコミュニケーション/コミュニケーション技術
9位(2.5%)	介護の基本/介護過程
9位(2.5%)	ところとからだのしくみ/発達と老化の理解

出典：外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書



(3) 授業評価の導入と活用方法

教員(講師)の皆様は、前述したような観点で授業計画や準備を行った上で実際に授業(講義)を行うこととなりますが、現状では、養成校の教員(講師)、特に専門学校(講師)において、半数程度は授業評価を受ける機会がこれまでなかった¹⁸といった状況になっています。**自身の授業について、外部から客観的な意見をいただくことは極めて重要であり、積極的に外部の意見を取り入れ、ご自身の授業を改善いただきたい**と考えます。

実際に、授業評価の結果、自身の授業を以下の点で変更したという意見が挙がっています。**話すスピード、授業の分かりやすさなど、自分自身では気が付かないことも多いことが想定されます**。できる限り他教員(講師)等、外部から評価をいただき、より良い授業につながる改善をしていきましょう。

図表14：授業評価を受けた結果、改善した点

改善点(回答の多い順)
・ 話し方(スピード・声のトーン等)を変えた
・ わかりやすい言葉を用いるようにした
・ ルビをふるようにした
・ 授業の進行スピード・内容を変えた(レベルに合ったスピード・内容にした)
・ 視覚に訴える教材にした
・ 日本語・専門用語の解説を講義中や講義後に行うようになった
・ 理解度を確認するようになった
・ 板書・プリントの文字を大きくした、フォントを変えた
・ 小テストを行うようになった
・ 資料・教材情報を提供した・するようになった
・ 資料をわかりやすくした
・ 個別対応・少人数対応を始めた
・ テキスト以外の資料を紹介・追加した

他教員(講師)から自身の授業を評価いただく際には、**評価項目を事前に設定し、改善点を抽出するというのが効果的**です。これら書式に記載をいただいたうえ、直接その教員(講師)から感想を聞くほか、教員(講師)間で授業についてディスカッションするなど、**複数の教員(講師)で授業について議論することが重要**です。

また、教員(講師)だけでなく、直接学生から授業の評価をしてもらうのも重要かつ効果的です。この場合、記名式、文章での評価となると、学生が気を遣って悪い評価を記載しない等の可能性も想定されるため、できる限り無記名、誰が回答したのか分からないように回答を扱う等の工夫も必要となります。

以下、教員(講師)同士で行う授業参観時に使用できる、意見抽出のための記載シートのサンプルを添付します。学校ごとに状況に合わせて変更いただくなり、工夫してご使用ください。

¹⁸ 日本介護福祉士養成施設協会、外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書、2022、pp.95-96

図表15：授業参観時の記載シート サンプル(教員(講師)記載用)

授業参観 感想・意見記録用紙	
学校名	
科目名	
記載者名	
<p>※以下は、授業評価ではなく、外国人介護人材への指導として、他の教員の参考になるという観点で記載していただくようお願いいたします。</p>	
チェックポイント	記入欄
① この授業の良い点、学生や受講生の学びが促進されていたように思う点について	(具体的にご記載ください)
② この授業の改善点、学生や受講生の学びが促進されていなかったように思う点について	(具体的にご記載ください)
③ 講師の言葉の使い方(日本語の面)について	(具体的にご記載ください)
④ その他について	(具体的にご記載ください)
⑤ 講師に向けたメッセージ、参考になる情報やアイデア	(具体的にご記載ください)

出典：本協会にて独自に作成



一口メモ：他教員(講師)からの学び

教員(講師)として、指導における様々な手法を学んで自分の力を高めていくことが重要である。昨今、オンラインで簡単に教員(講師)同士がつながることができるため、活用できるとよい。特に教員(講師)経験が浅い場合、色々な他教員(講師)の授業を見に行くべきである。また、参観した際は、良い所を指摘するだけでなく、「何を改善すべきか」という点を指摘するべきである。自らの授業も他教員(講師)に見学いただき、改善点を示していただくとよい。

【長年の留学生指導経験がおありの養成校教員(副学校長)の声】

3. 指導する際の日本語の使用

留学生指導のポイント	
Point-1	講義で話すスピードを意図的に遅くする必要はない。ただし、学生の反応を見てスピードは調整が必要。
Point-2	留学生が知っている日本語を理解するために、授業等日ごろから留学生とコミュニケーションを取ることが重要。
Point-3	授業等の説明では、一文が長くなりすぎないように注意。
Point-4	学生の理解を促すために言葉や文をやさしくすることは重要であるが、あくまで「やさしい言葉で説明する」ことであり、介護専門用語等覚えなければならない言葉を言い換えることを指すのではない。
Point-5	辞書を使用し、外国人介護人材の母語で意味を調べることも時には有効である。しかし、原則、日本語は日本語で理解するとし、辞書は適当に使用するよう指導しておくとうい。
Point-6	日本語の専門家に養成校で授業をお願いする場合、「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」に特化した講義で、かつ使用するテキストなどは、介護に特化したものを使用してもらうとうい。
Point-7	日本語の専門家には、クラスの留学生の日本語学習歴の内容、留学生が知っている日本語について、指導を受けるとよい。また、可能であれば、テキストや自作の教材内の語彙説明、テキスト、資料自体をやさしくしてもらうなどが依頼できるとよい。
Point-8	日本語専門家とかかわりがない場合は、外国人介護人材がこれまでどのような日本語を勉強してきたか、現状でどのようなことが理解でき、理解できないかを注力して把握していくことが重要。普段から、言葉の意味を外国人介護人材にどのように説明するかを考えていると、言葉への感覚が磨かれていく。

(1) 指導の際に介護教員(講師)が注意すべき日本語の使い方・考え方

外国人の方と日本語でコミュニケーションを取る際、「ゆっくり話す」、「丁寧な言葉を使う」などの事柄に対し注意されている方が多いのではないかと思います。しかし、養成校で授業をされる際に使用する日本語では、何について気を付ければよいのでしょうか。ここでは、各項目に基づき、授業等にて意識していただきたいポイントをまとめました。

① 話す速さ、ポーズ、抑揚について

話す速さは人によって、かなりの差があります。外国人にとって聞き取りやすい速さというと、速いよりはゆっくりの方が聞き取りやすいでしょう。しかし、ゆっくりだから聞きやすいというものでもありません。本協会が行なった調査結果によると、「文節と文節の間に

ポーズ(間)を入れる」の項目に対して、「常に実践している」、「概ね実践している」と答えた教員(講師)の方が54%いました¹⁹。確かに文節と文節の間にポーズを入れると、話す速さは落ちますが、言葉がボツボツと切れてしまいます。果たして聴き取りやすいでしょうか。また、話し手として話しやすいでしょうか。

日本語の授業ではないため、講師は授業内容の方に重きを置く必要がありますが、どうすればよいでしょうか。話す速さは、**相手が外国人だからといって、留学生は来日したばかりの外国人ではありませんので、普段話している速さで構わない**と考えられます。ただし、**他の人や学生から話す速さが速いといわれることがあれば、少し注意をすればよい** Point-1 でしょう。文と文の間を少しあける、息継ぎの間を多少長く取るなどです。

また、日本語のイントネーション(抑揚)は高低イントネーションで、文中でどこを高くするかで何が一番言いたいかが変わります。例えば以下のような例が挙げられます。

図表1：発言の例と注意すべきポイント

発言の例	発言時に注意すべき点
「先週勉強した介護保険制度の試験をします。」	「先週」「介護保険制度」「試験」のどこを高くするかで、話し手の言いたいことが伝わります。高くしようとする言葉の前では少し間ができます。講義をする際の話し方を考えるのであれば、抑揚を重視したほうがよいでしょう。抑揚のない発話は、言葉がつながって聞こえて聴き取りにくいし、魅力のないものになります。

② 標準語で話さなければならないか

本協会が行なった調査結果によると、標準語を話すようにしているという教員(講師)の方が61.5%でした²⁰。実際に、授業で方言を使ったことに気付いて、改めて標準語で言い直しをされている方も多いのではないのでしょうか。

しかし、介護専門用語や説明に使う語彙が方言になっているわけではありません。語尾や問いかけの言葉などが方言になっているだけで、留学生もいつも聞いている言葉であれば、理解に問題はないと思いますので、あえて標準語を使う必要はないと思います。外国人の就労する介護現場においても、多くの方言が使用されています。就労半年をすぎても、方言のために就労に問題が起きているという事例はあまりないのが現状です。

¹⁹ 日本介護福祉士養成施設協会. 外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書. 2022, p.78

²⁰ 日本介護福祉士養成施設協会. 外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書. 2022, p.78

③ 留学生が知っている日本語

「留学生がわかる日本語とは、どのような日本語でしょうか？どのような日本語で授業をすればよいのでしょうか？」と疑問を持つ教員(講師)の方は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。答えとしては、「彼らが知っている日本語を使うこと」ですが、それがどのような日本語なのかは、実際にはよくわかりません。

留学生ともなると、これまで、どのような日本語を勉強してきたのか、日本で、どのような生活をしてきたのか、また今の彼らの生活環境からも、知っている日本語には違いがあるからです。

まずは、留学生と話しをしてみる事が重要です。一度ではなく、何度もコミュニケーションをとることで、彼らの日本語力がある程度測ることができます Point-2。

教員(講師)の皆様は、日ごろから授業中、留学生とやりとりをされていますでしょうか。授業外にて個別指導、生活指導等で留学生とコミュニケーションを取ることはもちろんですが、授業の中でも彼らとコミュニケーションをとる工夫はできると思います。また、理解語彙と使用語彙には差がありますので、日本語能力を測る基準となっている日本語能力試験のテキストを見てみるのも、よい方法だと思います。彼らが知っている言葉のイメージができると思います。

本協会が行った調査によると、「外国人介護人材がどのような言葉を知っているか意識して対応する」、「外国人介護人材の日本語レベルに合わせて話しをする」という項目で、どちらも60%以上の講師の方が「対応している」とのことでした²¹。授業をしている中でも、知っているか知らないかは、自ずと、わかってくるのではないのでしょうか。

④ 外国人が理解しにくいと感じる日本語

外国人の方が理解しにくいと感じる日本語は、おそらく日本人にとっても理解しにくいものだと思います。前述した話す速度が速すぎる、抑揚がない発話などは、理解しにくい要因になりますが、その他に、「長すぎる文」があります。

授業の日本語では、説明したいことが多く、話す際、一つひとつの文章が長くなるのが想定されます。**一文が長くなりすぎると、結局何を言いたいか明確に伝わらない恐れがあります。簡潔に、短く話すよう努めましょう Point-3。**

²¹ 日本介護福祉士養成施設協会,『外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書』, 2022, p.78

本協会が行った調査によると、できるだけ短い文で話すことは60%以上の講師の方が実施しているようです²²。短い文で話すこと、さらに文の数を少なくすることで、発話が聞き取りやすく、理解しやすくなります。

文を短くする方法としては、以下の事柄が有効です。以下、例示をしつつ記載します。

図表2：話す文を短くする方法

方法	左記の例
文末を単純な形にする	実際の養成校の講義で使用された言葉を例にとってみると、以下のような例があります。以下のように、単純かつ敬語表現は避けて話しましょう。
敬語表現を避ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ ~な人がいらっしゃると思います ➡ ~な人がいます。 ・ ~していただけたらと思います ➡ ~してください ・ ~してもいいのかと思います ➡ ~します。
接続詞・接続表現を避ける	次に丁寧に話そう、理解を高めようとして、文が長くなってしまった例を挙げます。これも、実際の講義で教員(講師)が話された言葉です。接続詞・接続表現や、不要な言葉を赤線で消し、短くしてみました。
文と文の間に不要な言葉を入れない	<p>こういうことから何かというと、いいですかね。皆さん、情報をいろいろ集めたりして事例をみていくことにまっす、その観察し情報を分析する視点ということは、どういうことかというと、俯瞰的に物事を見れるということになっていきます。俯瞰的にね。そうすることで、より詳しく、この事例について学ぶことができ、さらに介護の内容がよくなって←ることにつながる可能性が高←なるということになります。</p> <p>この文を書き直してみると、以下となります。</p> <p>情報をいろいろ集めて事例をみていくと、観察し情報を分析する視点は、俯瞰的に物事が見られるようになります。そして、より詳しく、この事例について学ぶことができ、さらに介護の内容がよくなります。</p> <p>発話の一部ですので、難解な言葉があり、内容の理解は難しいですが、文は短くなりました。</p>

⑤ 言葉や文章をやさしく言い換えることについて

介護に関する専門的なテキストの中には外国人がわからないだろうと思える言葉や文章が多くあります。テキストは抽象的な言葉が多く、説明に苦慮することが想定されます。

²² 日本介護福祉士養成施設協会、外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書、2022, p.78


言葉や文章をやさしくする際に、言葉の持つ意味を正確に伝えようとして、説明がかえって難しくなってしまうことがよくあります。言葉の意味を外国人が知っている言葉で、端的に説明できればよいのですが、そうはうまくいきません。

正確な言葉の意味も大切ですが、多少ニュアンスが違ってても、言葉のイメージができればよい、文章もポイントがずれていなければ、おおよその理解ができればよいと考えます。

EPA 介護福祉士候補者に配布されている「外国人のための国家試験対策」のテキストでは、言葉や文章をやさしくする基準は、「初級の日本語にする」とされています。実際には、初級の学習語彙数は 2000 語程度であり、それだけの語彙で説明するのは難しいのですが、まずは初級の日本語を目指します。特に文法は初級から大きく逸脱しないようになっていきます。参考までに、日本語の初級終了レベルは日本語能力試験 4 級と考えています。

以下、言葉や文章をやさしく言い換える方法について、例を挙げます。

図表3：言葉や文章をやさしく言い換える方法

方法	内容
言葉をやさしくする	<p>例：「判断する」 「判断」の意味を国語の辞書でみてみます。もちろん、意味がよくわかっている言葉であれば、いちいち辞書を調べる必要はありませんが、できるだけ調べるとよいでしょう。辞書では、「物事の真偽・善悪などを見極め、それについて自分の考えを定めること。」とあります。これを一番簡単にしたら、どうなるか、また初級という言葉に変えられるか、と考えてみると、「本当かどうか、良いか悪いか、よく考えて、決めること」と説明できます。もう一段階、「よいかどうか、決めること」とまで簡単にしても、言葉の意味はとれるのではないのでしょうか。</p> <p>例：「課題」 辞書には、「①仕事、勉強等の題目 ②解決しなければならない問題」とあります。そこから「解決しなければならない問題・しなければならない仕事」として、さらに「解決」を説明します。 「解決」は「問題やもつれが事件などを、うまく処理すること。また事件が片付くこと」とあります。これを初級という言葉にしてみます。「問題がなくなるようにすること」でどうでしょうか。おおよその意味はとれていると思います。</p>
文章をやさしくする	<p>文章では、前述の通り、おおよその意味が伝わる、ということが重要です。例えば、憲法第 25 条「生存権」を例にとって、文章を易しくしてみます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0; background-color: #e6f2ff;"> <p style="text-align: center;">憲法第 25 条 生存権(原文)</p> <p>(第 1 項)全ての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。</p> <p>(第 2 項)国は、すべての生活部面において、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。</p> </div> <p style="text-align: center;"></p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0; background-color: #fff9e6;"> <p style="text-align: center;">これを易しくすると、以下ようになります。</p> <p>(第 1 項)国民は、とてもよい生活ではないけれど、健康で、つらいことはがまんなくてもいいという生活をする権利がある。</p> <p>(第 2 項)国は、すべての生活について、社会福祉、社会保障、公衆衛生がよくなるようにしなければならない。</p> </div>

「言葉や文章をやさしくしてしまって、国家試験の日本語に対応できなくなるのではないか」とお考えの方もいらっしゃるでしょう。誤解のないように書いておきますが、**やさしくするのは理解のための説明であり、介護専門用語他、覚えなければならない言葉をやさしく変えてしまうということではありません。覚えなければならないものは覚えなければなりません** Point-4。

「やさしく言い換える」ということは、「やさしい言葉で説明する」 Point-4 ということです。前述した EPA 向けのテキストの中でも、必要なものは本文に残し、欄外で言葉の説明がされています。

⑥ 言葉の意味を母語で理解することについて

抽象的な言葉の場合、よくわからない日本語での説明より母語の辞書で意味を調べた方が、意味の理解が早く、正確な場合も多々あります。**言葉の意味のイメージができるのであれば、辞書を使うことも一つの方法** Point-5 だと思います。ただ、留学生の中には、意味がはっきりわからないと気がかりなのか、授業中辞書ばかり見ていたり、テキストが翻訳の記載でいっぱいになっているケースがあります。**実際には、テキストや国家試験のように、たくさんの言葉が使用されている際、すべての日本語を一つひとつ母語に置き換えることは難しい** Point-5 ことを、留学生に理解いただく必要があります。**原則、日本語は日本語で理解するとし、辞書は適当に使用するよう指導しておいたがよい** Point-5 でしょう。また、介護専門用語の中には、辞書に載っていない、または、母語とは違う意味で使用される場合もありますので、注意が必要です。

⑦ 昨年度ガイドラインで参考にしていただきたい箇所

本協会が作成した「留学生指導についてのガイドライン」では、国家試験に対応するための日本語力についてお示ししています。授業を進めていく上で参考にしていただきたいと思いますが、特に以下を参考にしてください。

P42～(1)漢字学習・漢字語彙学習、P44～(3)国家試験の問題文の読み取り方²³

この部分は、漢字の意味からの言葉の意味の捉え方について説明してあります。言葉の意味を説明する際に、漢字の意味からの説明は有用です。

²³ 日本介護福祉士養成施設協会. 留学生指導についてのガイドライン. 2021, pp.42-43, pp.44-46



一口メモ：介護教員(講師)が指導時に注意すべき点

話す速さについては、指導するときに介護教員(講師)が常に意識しておくべきことである。留学生は、介護教員(講師)が思っている以上に授業で話される言葉のスピードを速く感じているようだ。

また、線を引く箇所を示す・繰り返し伝える・「ここが大切」などの具体的に表現するなど、メリハリをつけて留学生の印象に残るように表現することが重要である。

さらに、テキストを用いての指導の場合は、テキストの表現を中心に指導することも重要である。復習する場合、テキストの表現と指導の際の表現、また、配布された資料の表現が異なると混乱が生じるため配慮が必要である。ただし、テキストの表現が難しいものもあり、この場合は、例えば「配慮する」⇒「気をつかう」など、やさしい言葉に言い換えることも必要である。言い換える際、学生の反応を確かめ、口頭表現だけでなく、板書するなどの視覚化することも大切である。

【EPA で多数指導経験が{o}ありの養成校教員(副学院長)の声】

(2) 日本語の専門家との連携

① 養成校内等で日ごろから日本語専門家による授業が行われている場合

本協会が作成した「留学生指導についてのガイドライン」では、国家試験に必要な日本語力として「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」の3点を挙げています²⁴。日本語による介護専門の授業に対応する日本語力としても、同じことがいえます。学校のカリキュラムに日本語の授業が設定されている場合、この3点を身につける授業を日本語専門家にしてもらおうとよいでしょう。「授業で使用するテキストを理解する」、「講師の授業を理解する」、「国家試験の日本語を理解する」ことにつながる日本語力を養うのですから、使用するテキストなどは、介護に特化したものを使用するほうが早道 Point-6 です。テキストにある漢字語彙の意味を漢字の意味から捉える、読解の教材として授業で使用するテキストを使うなど、できるだけ先の学習につながるような授業を期待します。

語彙指導についてですが、「国家試験で使用された」、「日本語能力試験の問題の中で使用された」などという理由で、語彙を学習しなければならないとすると、語彙の数は限りなく増えていきます。出てきたときに理解すればよい語彙も多数あるでしょう。(例えば、リュックサック、パネルヒーター、砂場、ブランコなど)

知っている語彙数は多ければ多いほどよいことは当然ですが、学習時間、留学生の能力などを考慮し、学習語彙に優先順位をつけて指導することが必要でしょう。まずは授業に対応できるための語彙が一番かと思いますが、介護専門家と日本語専門家と連携して指導する語彙を決めていくとよいと思います。

²⁴ 日本介護福祉士養成施設協会。留学生指導についてのガイドライン。2021, pp.41-42

② 定期的に日本語専門家にアドバイスいただける環境にある場合

上記①で説明した内容を、授業をしながら学生に身につけさせる必要もありますので、まず、クラスの留学生の日本語学習歴の内容、留学生が知っている日本語について、日本語専門家の指導を受けるとよい Point-7 でしょう。また、可能であれば、テキストや自作の教材内の語彙説明、テキスト、資料自体をやさしくしてもらうなどが依頼できるとよい Point-7 と思います。

③ 日本語専門家と関わりがない場合

言葉をやさしく言い換えたり、文章をやさしくしたりというのは、日本語専門家ならだれでも簡単にできるというものではありません。日本語専門家でも、一つの言葉の説明を何時間も考えることがよくあります。複数の辞書で意味を調べ、どこかにとっかかりがないか探り、結果うまくいかないといったこともあります。特に和語をやさしく言い替えることは、とても難しく、日本語専門家だからといって、簡単にできるものではありません。反対に、日本語専門家でなくても、言葉の意味やテキストの内容をやさしい言葉で説明をすることはできます。日本語専門家と介護教員(講師)のみなさんとの違いは、日本語専門家は留学生がどのような日本語を勉強してきたか、どんな日本語を知っているかを、みなさんよりは知っているということにつきます。

日本語専門家と関わるできない場合は、外国人介護人材がこれまでどのような日本語を勉強してきたか、現状でどのようなことが理解でき、理解できないかを注力して把握していくことが重要 Point-8 です。

また、普段から、この言葉はどのような意味か、留学生にどのように説明するかを考えていると、言葉への感覚が磨かれていく Point-8 でしょう。時間と手間はかかるとは思います。日本語専門家がいなければできないというものではありません。また、介護専門の言葉や、テキストの内容などは、日本語専門家にはわからないものも多いです。こういった場合、むしろ介護教員(講師)の方が、正確にわかりやすく説明することができると言えます。言葉の意味説明、文章をやさしくする方法については、EPA 介護福祉士候補者に配布している読解教材、国家試験対策テキストも参考にして戴ければと思います。



一口メモ：介護教員(講師)が日本語専門家から得られるアドバイス

講義をする際に日本語専門家から頂いたアドバイスとしては、「話すスピード」、「文章(言葉)の切り方」、「地域の言葉(方言)と標準語の整理」、「平易な言葉への言い換え」等がある。また、テキストや資料を使用する場合は、「説明しているところを常に確認する」、「的確に話しているところが分かるようにすること」など指導を受けた。

例えば、私がよく使う言葉で、料理の味を聞かれた際、「味がみずくさい」という表現がある。これは関西の方言であるが、これに対し、「味が薄い」と表現するのが一般的であり、「みずくさい」は人間関係を表現する時に使用する旨の指導を受けたことがある。このように、普段使っている言葉が一般的な表現か、そうでないか、地域特有・年代による表現か、教員(講師)は意識して確認すべきであり、これらは日本語専門家からも指摘いただくとよいと考える。

また、言い換え表現などについては、事前にアドバイスを受け、留学生に伝わる表現として準備をしておくことも大切である。

【EPA で多数指導経験がおありの養成校教員(副学院長)の声】



参考. 授業の教案サンプル

この章では、本協会が行った「教員研修会」で放映した留学生を指導する際の模擬授業について、教案を示しながら具体例を説明します。本教材については、教案だけでなく模擬授業の動画(<https://youtu.be/9jgjBQcDEIM>)もごさいますので、併せてご確認ください。



模擬授業動画

QRコード

1. 模擬授業教案について

以下の前提をもとに行った模擬授業であることに留意いただき、参照ください。

- ・ 授業形態は、留学生に対する補講
- ・ 使用する教材は普段留学生が使用するテキストのみ
- ・ 授業時間は 60 分

◀ 模擬授業 授業教案 ▶

科目名	社会の理解	授業回	補講
学年			
授業のテーマ	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策を理解する		
学習の目標 (到達目標)	第3節 地域包括ケア ◆地域包括ケアという考え方が出てきた背景について理解する ◆地域包括ケアをめざす介護のあり方について理解する ◆追記包括ケアシステムについて理解し、介護福祉士としてどのようなことが期待されているのかを理解する		
学習上の キーワード	『第3節のキーワード』 地域包括ケア 地域包括ケアシステム 地域包括支援センター 日常生活圏域 (30分以内、中学校区) 自助・互助・共助・公助		
使用する教材	最新 介護福祉士養成講座 社会の理解 最新 介護福祉士養成校講座 介護の基本Ⅰ、Ⅱ (介護の基本Ⅰ、Ⅱのテキストは、養成校で使っていたら、活用する)		

◀ 模擬授業 授業運営計画 ▶

時間	授業内容	展開方法	教育活動の留意点	使用する教材
5分	・ 前回箇所の確認 ・ 本日の授業の説明	テキストを活用した口頭説明	本日の授業のテキスト箇所が分かるように説明する	社会の理解のテキストP.59～62 介護の基本Ⅰ、Ⅱのテキストを持参してきているか確認する
35分	・ 地域包括ケア ・ 地域包括ケアシステム ・ 地域包括支援センター ・ 日常生活圏域	社会の理解の他ページを活用する 他の科目になるが、テキストを確認して、活用する	社会の理解の他の該当ページを活用する 介護の基本Ⅰのテキストの活用を示す	「地域包括ケアシステム」については、社会の理解のテキストP.183 介護の基本ⅠのテキストP.61のイラストを活用する 地域包括支援センターについては、社会の理解のテキスト P.185 のイラストを活用して説明する
15分	・ 自助・互助・共助・公助	まず言葉の持っているイメージを聞いてみる	各言葉の内容を理解できるようにする	介護の基本ⅡのテキストP.62を活用する。
5分	・ 本日のまとめ	本日の学習上のキーワードを示す。そして、テキストの該当箇所を示す。 確認をする		

2. 講義中に工夫すべき点

本模擬授業でも実践されていた、講師による講義中の工夫点は以下の通りです。なお、本模擬授業は実際の留学生の対面授業でなく、あくまで講義形式の授業を撮影しています。このため、以下ポイントは部分的に動画内で実践されていない点も含まれていますので、ご留意ください。

図表4：講義中の工夫点

注意点	内容
テキストの使い方について	<p>【テキストの該当箇所を明示する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、学生がテキストの該当箇所を開けられているか確認する。 ・ その際、テキストが見えるように示す。複数のテキストを活用する時は、同時に該当箇所を開けたままにしておいてもらう。 <p>【テキストの音読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読してもらうことで、理解の度合いを測ることができる。1人で読んでももらう時、全員で読んでももらう時があり、使い分ける。 <p>【テキストの別ページ参照表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキストの枠外に、別ページ参照の旨の表記が記載されていることがある。これは、重要点であることが多く、必ず該当ページに印をつけてもらうよう指示し、実際その該当ページを開いて内容を理解してもらうようにする。
授業中における留学生とのやりとり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生に質問をすることは多々あるが、その際の反応を確認する。前提として、まずは留学生の回答を否定しないことが重要。回答をいったん受け止めてから、別の視点からのアプローチを説明する。回答内容が明確でなく分からない場合は、そのままにせず、適宜確認する。沈黙がある場合は、考え途中として、「考え中かな」等の声掛けをし、回答を促すこともある。答えられそうか確認し、質問の仕方を変えたり、ヒントを付け加えたりする。回答によっては、その言葉は、どの科目、何先生の時に使われていたかも確認する。 ・ 留学生からの回答が小さな声である際、特に、しっかりと受け止め自信を持ってもらえるような対応を意識する。 ・ 板書なども活用して、理解を促すように工夫する。



Ⅲ. 具体的な指導方法

この章では、本協会が行った模擬授業分析、各養成校へのヒアリング結果等を踏まえ、実際に外国人介護人材を指導する際の効果的な指導方法について記載します。各教員(講師)の皆様は、ご自身の授業と照らし合わせ、参考にいただければと考えます。

1. 指導全般にかかるポイント

(1) 授業内の声掛け、配布資料の工夫

① 重要なポイントを理解してもらうための指導方法

留学生にとって、外国語である日本語で授業を受けることとなるため、**重要なポイント**は、「**重要である**」ことが分かるよう教員(講師)が工夫していく**必要**があります。具体的には、以下のような点が挙げられます。

図表5：重要なポイントを理解してもらうための工夫

改善点(回答の多い順)
・ 介護用語など必須で理解しなければいけない文言、概念など重要なポイントを繰り返し説明する
・ 重要な箇所はアンダーラインを引くなど、学生にも意識しつつ学習してもらう
・ 重要な箇所は、質問形式にして学生に口頭で答えてもらって理解度を確認する
・ スライド、映像等視覚的な教材を活用して理解してもらう。



一口メモ：スライドや教科書の使い方

重要な内容は何かという点を伝えることもそうだが、学生自らが主体的に授業内で学んでいくことも重要である。重要なポイントを説明するため、講義での使用資料を全編パワーポイント等のスライドを使用しているケースも見られるが、受動的に「ただ授業を聞くだけ」にならないような工夫が必要である。例えば、各種ポイントで板書をし、ノートに書き写してもらうほか、質問をして発話する等の工夫が必要である。これは、スライドのみに限った話ではなく、教科書のみを使用し講義を行う際も、同様な工夫が必要となることが想定される。

【国試合格率が高い養成校教員(教務主任)の声】

② 複数科目間で内容が連携していることを理解してもらうための指導方法

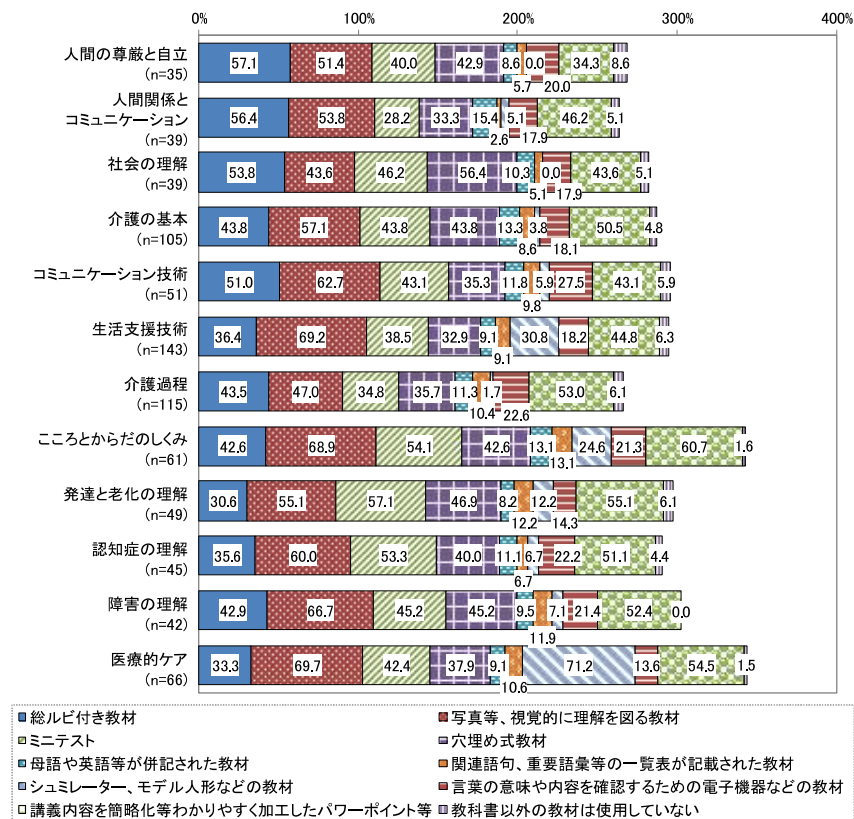
「Ⅱ章 2.講義(授業)の位置づけを考える」で、科目間連携の重要性を記載しました。養成課程の各科目においては、それぞれ独立しているわけではなく、複数の科目で関連性をもって学習してもらう必要があります。「●●先生の授業でこういうことをやったけれど」など投げかけ、学生が理解していることを確認するなど、積極的に他科目との関連性をつけ、理解してもらうことが重要です。

③ 適切な教材の選び方

科目、指導の内容によって適切な教材は異なります。映像教材や補助教材においては、科目によって多く存在する科目とそうでない科目がありますが、全科目、同様に効果的であるということではありません。教材は、それぞれの指導の方向性、理解の度合いによって選ばれるべきであり、教員(講師)の皆様は、指導するクラス、生徒の学習状況に合わせ、どのような教材を活用すれば効果的かについて、日ごろから意識し、意図的に活用教材を選定してください。

本協会が行った調査結果によると、科目別で以下のような教材が活用されていました。参考にしていただければと思います。

図表6：講義で留学生の理解度を高めるために使用している教科書以外の教材種別



出典：外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書

(2) 主体的な学習への支援

① モチベーション維持・アップに関する指導方法

本協会が作成した「留学生指導についてのガイドライン」にも記載²⁵していますが、**主体的に学生が学ぶ要素として、学習へのモチベーションは大変重要**です。

学生に対するモチベーションの高め方については、もともと介護を学ぶ意欲の高い学生に対する場合と、そうでない学生に対する場合と対応が違うことも想定されます。本協会が行った調査結果²⁶によると、全国の養成校では、以下のように学生のモチベーション向上に対する工夫が行われていました。教員(講師)の皆様はこれを参考にいただき、自校での取組を進めていただければと思います。

図表7：学生のモチベーションの高め方の工夫

対象	教え方
もともと学習へのモチベーションが高い外国人介護人材へ向けて行っている工夫	<ul style="list-style-type: none"> 褒める・評価する、意欲を向上させる、達成感を持たせる より多くのことを教える・求める、レベルを落とすすぎない 積極的にコミュニケーションをとる、話を聞く 目標や学習状況を確認する、意識させる 日本人学生と同様に指導する 質問できる場を増やす、質問により丁寧に答える 他の学生に教える場面を設ける 発展的な資料・教材情報、資格情報や介護・福祉情報を提供する 常に気に掛ける、見守る、孤立しないよう配慮する リーダー的役割を任せる 他学科・卒業生・日本人学生等との交流の場を設ける 講義中に発言する機会を設ける
あまり学習へのモチベーションが高くない外国人介護人材へ向けて行っている工夫	<ul style="list-style-type: none"> 褒める、意欲を向上させる、達成感を持たせる、できることをみつける、活躍の場を設ける 積極的にコミュニケーションをとる、話を聞く 目標や学習状況を確認する・意識させる 個別面談・指導を行う 講義・教材・演習の工夫をする(視覚的に要素を増やす、グループワークを増やす等) 意欲の低下理由を探る、解決する スキルアップの魅力や介護・資格取得の魅力・メリットを話す わかりやすい言葉で説明する、実例・実生活の内容で例えて説明する 日本に在ることの目的を確認する、日本での生活の魅力を伝える 別途講義や野外活動を行う クラスメイト・他学科・学校外との交流の場を設ける 出身国の話題に触れる、出身国の話をしてもらう 「わからない」と言える雰囲気を作る、わからないことは聞くように意識付けをする 他者からの働きかけができるよう協力を仰ぐ 日本語能力、一般常識を教える アルバイト先と連携する 日本語を使う機会を増やす わかるまで説明する・質問を投げかける

²⁵ 日本介護福祉士養成施設協会. 留学生指導についてのガイドライン. 2021, p.33

²⁶ 日本介護福祉士養成施設協会. 外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書. 2022, pp.91-92



一口メモ：様々な理由で高まるモチベーション

実習で利用者と関わりを持つということが、最もモチベーションアップにつながると感じている。コロナ禍の影響でオンライン上での関わりが多かったが、昨今は実習施設に行き、自主的に利用者と関わる機会が増えたところ、学生の表情が一段と明るくなった。利用者に褒められたり、喜んでもらったりなど、人と人との関わりがモチベーションの維持と向上につながると感じる。

また、模擬試験等で他学生の点数や順位が分かると、「負けていけない」とモチベーションアップすることがある。日本語が苦手であった留学生でも模擬試験等で点数が高いことが分かれば、他の留学生のやる気につながるようである。勝ち気な性格を持っている学生においては、こういった他者との点数比較は有効である。日本人にとっても、留学生が自分たちより点数が高いことで、競争原理が働き、良い関係性になっている。競わせるというのも一手である。

【長年の留学生指導経験がおありの養成校教員(副学校長)の声】

② 自己学習を効果的にするための指導方法

学習能力において、学生の状況は様々です。日本語能力試験で難易度の高いレベルに合格している場合などは、「自己学習できる能力がある」ことを判断する一定の目安になりますが、そもそも「どのように学習をすればよいか」が分かっていない学生も多く存在します。

学習能力、それに関連した自己学習を行えているかを測る方法としては、授業での小テスト、模試等の結果を見て判断することが考えられます。これらは、恒常的に行う必要があり、学校によっては毎時間、ほとんどの授業で小テストを行い、教員(講師)間で成績の共有をしている学校も存在します。学習時間を考えれば、自宅での時間でどのように効果的に学習するかが大変重要です。入学年次から小テスト等を活用するなど、学習状況だけでなく、自己学習ができる学生かどうかを判断し、できない場合は個別で宿題を出すなど、工夫が必要となります。本協会が行った調査結果によると、全国の養成校では、以下のように学生の自己学習についての指導が行われていました。

図表8：自己学習についての指導内容

項目	内容
学び方に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> 調べ方・覚え方・勉強の仕方を教える 復習・反復練習をさせる 宿題・課題を出す 学ぶべき内容を具体的に伝える 資料・教材情報を提供する 習慣づけについて指導する 視覚に訴える教材を使う(イラスト・写真等を使う)
理解度に合わせた指導	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況や理解度を確認・アドバイス・フィードバックする 個別面談・個別指導・補講・特別授業を行う 困っていることやわからないことは質問する・聞きに来るよう指導する、質問できる環境を作る 学生のレベルに合わせた内容・量で指導を行う
指導環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 時間外に教室を開放する、学ぶ環境を作る コミュニケーションを取る機会を設ける(对学生、対講師)



一口メモ：勉強の仕方について

自己学習の効率については、学生様々である。学生本人は長時間勉強していると思っけていても、実際には勉強してるうちに入っていない可能性もある。例えば、「YouTubeを見て日本語を勉強した」という学生がいたが、視聴した動画の内容を聞いたところ、母国語字幕が入っている映像であった、というケースがあった。その場合、どうしても母国語を読んでしまい、日本語を学ぶ最適な手段とは言えない可能性がある。

学生に自己学習のスキルを身につけてもらうためにも、毎日何らかの課題を出し、教員(講師)が確認し、また課題を出す。それを繰り返していくことが大変重要であると感じる。

【国家試験の合格率が高い養成校教員(教務主任)の声】

③ 日本人学生と留学生の交流による効果

本協会が行なった調査によると、およそ7割の学校で、日本人学生と留学生が同じクラスで授業を受けているということでした²⁷。普段から共に授業を受けており、交流がある場合、学習の進捗が早い日本人学生の協力を得て、留学生の理解促進のためにサポートしてもらう等の体制を教員(講師)が構築するなど一手として考えられます。

教える側の日本人学生は、間違ったことを教えないようさらに学習を進め、教えてもらう側の留学生は介護の理解が進み、かつ日本人学生とコミュニケーションを取ることで日本語の上達も見込めるといった相乗効果が期待できます。本協会へは、クラスの中で留学生同士が固まり、日本人学生と交流があまりないようなケースも報告されています。該当する場合は、是非実践いただければと思います。

なお、当該取組を行う場合、教える側の日本人学生の負担は十分考慮し、進めていただく必要があります。

(3) 習熟度が様々な外国人介護人材に対する指導の工夫

① 習熟度に合わせた授業参加

各養成校の留学生の習熟度には多少なりとも差があります。介護教員(講師)の説明を聞いて理解できる留学生、説明を聞いてルビのある資料を見て理解できる留学生、なかにはルビのある資料を見ながら教員(講師)の説明を聞いても、理解が難しい留学生がいます。

²⁷ 日本介護福祉士養成施設協会、外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書、2022、p.114

そこで、介護教員(講師)が一方向的に説明をするだけでなく、留学生の習熟度に応じた授業への参加を考えてみます。

図表9：習熟度に応じた授業への参加例

ケース	読み取り方
習熟度の低い留学生	<ul style="list-style-type: none"> 音読を担当してもらう。 あるいは、その日の授業で大切な箇所に線を引くように指示した箇所が、的確に線が引けているか発表してもらう。
ある程度習熟度に達している留学生	<ul style="list-style-type: none"> 質問をして回答してもらう。

※留学生のプライドやモチベーションなどに配慮した指導を工夫する必要がある

② 説明のスピードと文字の視覚化

次に介護教員(講師)の説明のスピードです。日本語能力が高くない留学生にとって、説明のスピードは、介護教員(講師)が思っている以上に速く感じるようです。まずは句読点の区切りを意識して、一言ひとことをはっきりと発音をするほか、状況に応じて句読点以上に区切りをつけたり、「大切」「ここは線を引きましょう」など、言葉を加えて説明することが重要です。

また、これら説明を行う際は、どこを説明しているのか、説明の箇所が分かるようにする必要があります。この場合は、口頭説明に加えて、板書して視覚化することが必要です。文字の視覚化については、以下のケースで有用です。

図表10：文字の視覚化の際の注意点

例	内容
口頭で聞いているだけでは取り違いが生じる言葉	<p>「みぎかたまひ」を口頭で聞くと、どのように捉えているでしょうか？介護教員(講師)が思っている「右“片”麻痺」と捉えているケースや、「右“肩”麻痺」と捉えているケースもあるかもしれません。</p> <p>このように、口頭で聞いているだけでは取り違いが生じる言葉や、視覚化しても同じような漢字が並ぶ場合には、意識して指導することが必要です。</p> <p>漢字は意味を表す言語であり、漢字による視覚化は大切です。ただし、ルビがないと不安という留学生もいると思います。そのため、習熟度に合わせて表記を工夫する必要があります。</p>
視覚化しても説明を聞いただけでは混乱してしまう言葉	<p>例えば、「地域包括支援センター」と「地域活動支援センター」を例にとつて見ると、これら2つのことばは、「包括」と「活動」以外の部分では全く同じ文字が使われています。しっかりと確認しないと見間違えます。実際に第30回の国家試験問題(問題85)の選択肢に挙げられています。</p> <p>そのため、視覚化した際に、違いが分かるように下線を引く、文字の色を変える等の工夫が必要です。</p>

③ 言葉の言い換え

テキストの表現が難しかったり、イメージしにくい言葉であったりすることがあります。その際に平易な言葉に言い換えたり、説明を加えることも理解を促す工夫のひとつと考えます。

例えば、「地域共生社会の創造」は、言い換えると、「地域で共に生きていく社会をつくる」です。「共に」ということは、誰かと誰かがというように、複数の人が一緒に生きていく社会をつくる、となります。つまり、子どもも大人も高齢者も、障がいのある人もない人も、一緒に生活していく地域社会をつくりましょう、ということになります。そして、そのような社会をつくるための法律や制度にはどのようなものがあるかを考えます。また、施設サービスをどのように捉えるかを考えます。

言葉の言い換えのうち、「言葉をやさしくする」ことについては、前述の「Ⅱ章 3.(1) ⑤ 言葉や文章をやさしく言い換えることについて」(P30-32)に詳しく記載してあるので、確認してください。

④ 他科目との連携

各科目でいろいろな資料が配布されると思います。留学生は、各科目で、担当教員(講師)より整理の仕方や活用の仕方などの説明を受けていると思います。このため、介護教員(講師)は、自らの科目だけでなく他科目で使用されているテキストや、その科目での進捗状況を確認しておく必要があります。そして、これらの把握を行ったうえで、他科目の情報を、自らの担当科目と関連づけて説明することが必要です。その際に、他科目のテキストの該当ページ数を自らの担当科目の該当箇所のテキストに書き込ませるようにします。

図表11：他科目との連携の例

連携科目名	内容
「社会の理解」／「介護の基本」	科目「社会の理解」の介護保険制度のサービス内容は、科目「介護の基本」の介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみの箇所にも説明があります。あるいは、地域包括ケアシステムのイメージ図が、「介護の基本」のテキストに記載があることがあります。そのため、介護教員(講師)間での連絡、調整、テキストの確認などを行い、科目間での意識づけを行います。

※テキストにより記載内容が異なるため、確認が必要

なお、他科目との連携の重要性については、「Ⅱ章 1.(2)国家試験における科目間の関連性と教育現場で行われている科目間連携」(P23-24)に詳しく記載してありますので、確認してください。

2. 領域ごとの指導のポイント

(1) 人間と社会

① 外国人と日本人の価値観の違いについての理解

◆「尊厳」や「自立支援」概念的な用語の理解

尊厳の意味について、直接的に国家試験で問われたことはありませんが、尊厳の理解は、生活支援技術や介護過程等の問題を解く根拠(判断の基準)となります。日本でも目上の人を敬うということはいわれますが、儒教にも養老思想の教えがあります。「目上の方には何でもお世話して差し上げることが尊厳を守ることだ」と、思っている留学生にとって、「自立支援」という言葉の意味は理解できても、問題を解くときには判断に迷うようです。

同じような例に「自己決定」が挙げられます。これらは、単に言葉の意味を覚えるだけではなく、国家試験の過去問題や事例を活用し、「なぜこの行為が尊厳を損なうのか」、利用者が発した、「私のことは、ほっといてください=利用者の思い(自己決定)なのか」問題の解釈や選択肢の意味の捉え方を考えてもらうことが効果的です。

◆対人距離とコミュニケーション

コミュニケーションの図り方は、その世代や地域によって異なるように、国によっても大きく異なります。ハグや握手などボディタッチが相手との距離を縮める国もあります。留学生への指導は、コミュニケーションの図り方が異なることを前提とし、日頃からの言葉遣い等をその都度直すことや、コミュニケーション技術について、ロールプレイなどを活用し体験的に獲得してもらうことが効果的です。

② 当該領域で特徴的な言葉

当該領域では、先にもあげた「尊厳」や「自己決定」などの概念的な言葉の理解、社会の理解で問われる制度やサービスの名称などの漢字が多く難しい言葉の理解に加え、「措置」や「変容」、「努力義務」など日常会話ではあまり用いない言葉の理解が求められます。

特に、漢字圏を母国としない留学生は、「生活福祉資金貸付制度」や「地域密着型介護福祉施設入居者生活介護」など、漢字が多く並ぶだけで苦手意識を強く持つようです。それぞれの言葉を区切ってみると難しくない言葉も多く、漢字でしっかり概略をつかみ、苦手意識を無くすことで学習も進みます。

図表12：「人間と社会」で特徴的な言葉とその教え方

言葉の種類	教え方
概念的な言葉	・ 価値観が大きく影響することを踏まえたうえで、事例などを用いて具体的に説明すると効果的
制度やサービスの名称などの漢字が多い言葉	・ 言葉を区切り概略をつかむことや(在宅医療・介護連携推進事業なら、在宅/医療/介護/連携/推進/事業)、音読み視覚・聴覚を刺激するなどして理解につなげる
法律や公文書などで用いる言葉	・ 「措置」や「努力義務」など、言葉の意味だけではなくその内容を併せて理解できるようにする

③ 制度の変遷とその背景の理解

◆家族や地域、ライフスタイルの理解

少子高齢化や女性の社会進出等による、家族構造やライフスタイルの変化については、日本で育った学生には感覚的に理解できることでも、留学生の出身国の状況とは大きく異なります。例えば、日本と留学生の出身国の平均寿命や出生率は大きく異なっています。そのため、なぜこのように日本の家族構造やライフスタイルが変化してきたのか、その時の社会の状況をあわせて説明することが効果的です。アジアの各国でも高齢化が進んでいることから、留学生の出身国の今後の人口構造の変化等をあわせて考えてもらうと、より理解が進みます。

◆制度政策の変遷とその背景の理解

制度の理解は、その当時どのような社会構造でどのような出来事があったのか歴史的な背景を理解してもらうことが重要です。そのうえで、当時の社会的な課題や人々の生活課題をとりあげ、その課題に対してどのように制度ができたのかを説明します。

例えば、社会福祉八法は、戦後の生活困窮者の支援(旧生活保護法)、戦災孤児への支援(児童福祉法)、戦傷者等への支援(障害者福祉法)といった国民の生活課題に対応した社会福祉三法にはじまります。なぜこのような制度ができたのか、どのような社会の変化があり改正されたのかを、物語的に背景を説明することでイメージがわき、記憶に定着します。

④ 各種介護保険等サービスの理解

◆身近な題材から理解を進める

「もし、病気になった時」というように、医療保険制度など、留学生自身に身近なものから理解を促します。日本で生活するうえで起こりうる、障害、失業、老化などのさまざまな状況において自分自身を支える制度として、また、留学生自身が納めている税金がどのように使われているか、当事者意識を促すことで関心が持てるようになります。

◆視覚による理解を促す

制度利用の流れや変遷などは、流れ図や年表など、視覚化することで関係性が把握しやすくなります。また、国民年金や医療保険、介護保険制度などは、外国人の方向けに多言語化されたリーフレットなども作成されており、それらを活用することも理解を助けます。

(2) 介護

① 外国人と日本人の価値観の違いについての理解

介護における「理念価値」や「実践価値」について伝え、その考え方をどのように介護の中でいかしていくかを指導することが重要です。

図表13：「理念価値」や「実践価値」の考え方を介護の中でいかしていくかについての指導例

授業内容	教え方
生活支援技術の演習	・ 「生活支援のポイント」と、演習で実践する「基本的な介助方法」について、関連付けて指導する
介護過程	・ 介護サービスの理念である尊厳の保持や自立支援・利用者本位などの考え方を、介護過程の展開にどのように活かしていくかについて指導する

「理念価値」や「実践価値」などの考え方は目に見えませんし、人の持つ価値観の違いで解釈が異なってきます。そのため、介護の実践のなかで何を行うべきかを指導し、その実践を通して求められる考え方に関する理解を深めることが大切です。

生活支援技術の授業では、実践を通して日本人の価値観や文化を理解する重要な機会が多くあります。以下の行為は、身体に触れる技術に連続して行う行為です。このような行為を含め、「生活支援技術」であると考えられる必要があるとともに、これらの行為には、日本人と外国人との価値観や文化の違いが反映されるものであることを、留学生に理解してもらう必要があります。指導の際には、「利用者は、自分の服や使用する物の扱い方をみているものです。例えば、靴を揃えてつま先を前に向けて本人が使いやすいように置く、そうすれば日本語がうまく伝わらなくてもそれを見ている利用者の信頼につながるでしょう。」等と伝えることができます。

図表14：身体に触れる技術に連続して行う行為

行為の例
・ 脱いだ靴の揃え方
・ サイドレールを開けるときの動かし方、車いすを持ってくるときの丁寧さ
・ 布団の掛け方
・ 身だしなみの整え方

また、例えばアクセサリーの考え方等をとっても、身だしなみの問題だけでなく、「外れてしまった場合、床に落ちていると危険」、「口に入れてしまう方もいるから外す」等と理由を伝えつつ、安全な介護が求められる環境中でどうするかを問いかけることが必要です。ただし、宗教的な理由から、アクセサリーを大切にしていることもあるため、留学生が大切にしている本人の価値観と、介護の価値観のすりあわせをしていく必要があります。

③ 当該領域で特徴的な言葉

「介護」領域では、言葉は似ているものの意味が異なる言葉(例：『「介護」と「介助』』、『「支援」と「援助』』等)が繰り返し使用されます。これらの言葉は、介護の考え方やあり方を示しており、専門職として、正しく使い分けることが求められます。このため、留学生へは、初回授業など早い段階で言葉の意味を整理して伝えておく必要があります。また、教員(講師)も日ごろから意識してこれらのことばを使用していく必要があります。

一方、留学生が「たくさんの言葉で混乱しないようにすること」、「教員(講師)が話す言葉すべてが雑音にならないようにすること」が大切です。言葉の情報量が本人にとって過多となり、キーワードとなる言葉の理解が不十分にならないように注意する必要があります。具体的には、「授業開始時に授業のポイントを示す」、「重要なキーワードにアンダーラインを引き注目させる」、「学生へ質問するなど双方向で重要なキーワードの確認をする」、「留学生にとっても身近な具体例を挙げて説明する」といった基本的な対応を丁寧に行い、言葉の説明にメリハリをつけて指導することが大切です。

特に、事例を用いた介護過程の授業では、言葉の情報量が多くなります。さらに、介護過程のアセスメントでは利用者の主観的な情報や生活歴などを解釈することが求められます。**留学生が、言葉を整理し正しく理解するために、注目すべきキーワードなどを明確に示すこと、主観的情報や生活歴に関する解釈などでは、具体例を示し説明することが大切です。**

③ 介護過程の理解

留学生が主体的に授業に参加するための工夫を行うことが重要です。**学生が受け身にならないよう「注目する」・「書く」・「調べる」・「発言する」・「考える」といった教授方法を組み合わせる工夫が大切**です。

また、**思考過程という目では見えない内容を、図やイラストなどを活用し可視化することも重要**です。具体的には、思考過程のプロセスを板書し、「→」などの記号を活用し情報の関連性や思考の流れをイメージしやすくするといった工夫があります。通常は一つで教えることも細かく分解し、理解しやすいように噛み砕いて説明をしていくとよいでしょう。「分

かりますか」「まだ分かりません」「じゃあ次はこうで」などと、理解できたかどうかを一つひとつのステップ毎に個別に確認していくことが重要です。

さらに介護過程では、その思考過程を最終的に文章として表現することが求められます。そのため、**書き方のセオリーを提示することも有効**です。ケアの気づきとその根拠、またその結果から今後どのようなことが予想されるのかというように、起承転結で書くことができるよう、書き方のセオリーを提示することが重要です。そうすることで、留学生自身が考えたことや理解したことなどを、記述しやすくなるといえます。また、考えや日本語表現を養うには、日本人と留学生が交じったグループワークで話し合いしながら文章を書き、添削指導をする、といった繰り返しのサイクルも効果的でしょう。

④ 理論と実践を紐づけた理解

個人の体験(演習での利用者体験や実習での体験など)を他者と共有することや、共有し、わかったことを実践にいかすといった授業展開が大切です。体験として感じたことはその人の価値観や文化などの影響を受けることがあります。指導の工夫としては、主観的な体験を、他のクラスメイトと共有し、自分と同じ視点や違う視点があることを知る機会をもつようにすることです。このような機会は、外国人だから、日本人だからといった枠にとらわれずに多様な考えがあることを認識できる機会となります。

さらに、そのことを踏まえ、利用者の立場になって考える機会をもつようにします。利用者について考える際には、他科目と関連付けて学んだ知識を活用するように指導します。このことは、個人の価値観や習慣にとらわれずに利用者理解のために知識を活用し考える機会となるのではないのでしょうか。そのほかにも、生活支援技術の演習の授業などで介助手順に関する根拠を説明するときは、他科目で学ぶ知識と関連付けて説明するといった工夫が大切です。**演習の授業では、動きとのセットで理解するよう、理論と実践を紐づけた説明が重要**となります。

⑤ 演習のポイント

生活支援技術の演習では、日本の習慣や価値観を利用者との関わりのなかでどのように表現していくべきかを指導することが大切です。例えば、身だしなみの整え方や物品の扱い方など求められる関わりを示し、利用者に対して「ていねい」な関わりとなるように具体的に指導します。また、①でも述べたように、「理念価値」や「実践価値」を介護の実践のなかでどのように行っていくか基本的な介助手順を示しつつ、本人にも考えさせることが大切です。この指導では、**留学生としての価値観と専門職としての理念とのすり合わせが重要**となります。留学生が行った演習内容が不適切なものであっても、悪気があるわけではない場合もあります。指導のポイントは、その場、その時に、指摘すること、ただ間違

いを指摘するのではなく、「この場合は、このようにしてください。」「あなたのふるまいは、このような印象を与えてしまいます」「このようにすることで、利用者はこのように感じると思いますよ」と、根拠と合わせて伝えることが大切です。

そのほかにも、効果的な学習を進めるための工夫として学生同士が学び合える環境づくりが挙げられます。例えば、多様性のあるグループ編成(日本人と留学生の混合、同国の学生が1つのグループに重ならない等)や、主体的に参加できる人数編成などです。また、演習のポイントを明確にする工夫も大切です。介助手順に関する根拠を予習し授業を受ける、根拠を明確に示す、求められる視点や考え方などの理念や倫理を具体的に示す、などがあります。

(3) こころとからだのしくみ

① 外国人と日本人の価値観の違いについての理解

この領域で言えることとして、人体の構造と機能、疾病の理解などについては、領域の特徴として、覚えることや重要な事柄が決まっているため、その点については価値観の違いはあまり関係しないということがあります。価値概念を理解する前に、言葉の定義を明確に理解することが先決です。

一方で、死生観や延命治療、看取りに関すること、グリーフケアに関することなどは、風土や文化的背景の違いが大きいところです。そのため、言葉の定義を明確に理解したうえで、母国の状況と日本の状況の違いを知ることができるよう、日本人学生も含め多国籍の学生に自ら語ることを促し、理解を深めることが重要です。また、これは留学生に限ったことでなく、日本人においても、これらの価値観には個人差が大きいといえます。「日本人だからこうだ」と決めつけてはいけないことの大切さを伝える必要があります。

また、領域「人間と社会」、「介護」との関連性があることもポイントです。教員(講師)間の連携や情報交換によって、各学生の理解度などが共有できるため、積極的に当該領域の教員(講師)と連携して指導していくことが重要です。

② 当該領域で特徴的な言葉

「こころとからだのしくみ」で学ぶ用語については、医学用語が主です。人体の構造と機能(解剖生理)、疾患名や症状などについては、淡々と覚えることが前提となります。このため、図や動画など、視覚的教材を用いて理解しやすいように工夫していくことが重要です。また、理解を定着させるために、反復学習と小テストなどでの確認が必要です。重要な部分は音読して知識定着を図ることも必要でしょう。

また、症状や病態については、漢字を分解して意味を理解しやすいように、また段階的な説明を行うことも重要です。以下に例を挙げます。

図表15：段階的な説明の例

言葉	教え方
虚血性心疾患	<p>まず、「虚」 = 「内容がない」であるため、「虚血」 = 「血が無い、足りない」と覚えてもらう。また、以下のように段階を追った説明をしていき、理解を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どこ？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 心臓 ●どのような状態？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 心臓に送られる血液が足りない ●どうしてそうなるの？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 心臓に血液を送る血管が狭くなったり、詰まったりしているから ●どのような疾患があるの？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 完全に詰まっているのが「心筋梗塞」、狭くなって血液が流れにくくなっているのが「狭心症」 ●どのような症状？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 心臓に血が足りないのだから、胸が痛い、苦しい。そのままにしておいたら命が危ない
慢性呼吸不全	<p>まず、「慢性」 = 「病気が長く続いている、すぐに治らない」、「不全」 = 「できない、うまくはたらかない」と覚えてもらう。また、以下のように段階を追った説明をしていき、理解を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どのような状態？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 呼吸がうまくできない状態が、長く続いている ●どうしてそうなるの？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ ガス交換をする部位の「肺胞」がつぶれているから ●どのような疾患があるの？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺結核の後遺症、間質性肺炎など ●どのような症状があるの？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 呼吸がうまくできないから、息が苦しい



他にも、以下のような言葉が特徴的です。

図表16：「こころとからだのしくみ」で特徴的な言葉とその教え方

言葉の種類	言葉の例と教え方
状態や性質を表す言葉	<p>日常的には使わない言葉も多いため、イメージがつかめるよう、これらについても、図や動画などを用いて理解しやすい工夫が必要。</p> <p>例：うつ血性、うつ滞性、間欠性、緊張性、弛緩性、本態性 等</p>
一度理解すると汎用性が高い言葉	<p>一度理解すると汎用性が高い言葉は、根拠をしっかりと伝えて理解を促すことが重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「器質性」と「機能性」 <ul style="list-style-type: none"> ・「器質性」＝臓器そのものに何らかの異常がある ・「機能性」＝臓器そのものに異常はないが、何かの原因で働きが悪くなっている <ul style="list-style-type: none"> ➔ 機能性便秘、器質性精神疾患、脳の器質的な病変・・・などよく使われる ●「近位」と「遠位」 <ul style="list-style-type: none"> ・身体を中心(体幹)に近い部位が「近位」、遠い部位が「遠位」であることをしっかりとおさえておく <ul style="list-style-type: none"> ➔ 高齢者に多い骨折部位としてよく出る、上腕骨近位部骨折、橈骨遠位部骨折、大腿骨遠位部骨折
同じことを表すのに2つの言い方がある言葉	<p>同じことを表すのに2つの言い方がある言葉はわかりづらいため丁寧に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大循環＝体循環、小循環＝肺循環 など <ul style="list-style-type: none"> ・言い換えの根拠を図と短い言葉で説明。大循環＝体中をまわる大きな血の流れ。小循環＝肺と心臓のあいだだけの小さな血の流れ。 ●陳述記憶と宣言的記憶 <ul style="list-style-type: none"> ・「陳述」も「宣言」も、キーワードは「言葉にして伝えることができる記憶」のように、ポイントをおさえた説明。外国由来の言葉には、翻訳表現が異なる言葉があることを伝える。
外来由来の言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 翻訳表現が異なる言葉があることを伝える。
似たような漢字で紛らわしい言葉	<p>図などの視覚的教材を用いて説明する。また、個々の部位を表すときの使われ方と全体を表す場合との違いなど、単語だけでなく文脈で意味を理解してもらうようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●脊椎と脊柱と脊髓(同様に、頸椎と頸髄、胸椎と胸髄、腰椎...) ・ まず「脊」が「背中」という意味。 ・ 「椎」＝「骨」という意味、だから、「脊椎」＝背中の骨 ・ 「柱」＝「はしら」、だから、「脊柱」＝「背中の骨全体」を意味する ・ 「髄」＝「骨の中身」、だから、「脊髓」＝「背中の骨(背骨)の中身」

また、「発達と老化の理解」での「発達理論」に関しては、出身国に関わりない共通の学びです。これらに関しては、以下のように「誰が」、「何を」という観点で分けて理解してもらうと効果的です。なお、これらは、留学生だけでなく、日本人学生も同様に覚えづらい部分であり、名前と Key Word を一覧表にし、覚えてもらうようにすると効果的です。

「誰が」：理論を提唱した研究者名(ピアジェやバルテス、エリクソン、フロイト、ハヴィガーストなど…)

「何を」：その内容。そして、その中で特に、老年期をどの様に捉えているかの理解。

「身近な人はどうか？」：家族、アルバイト先の利用者などと結びつけて考えさせることを促して理解を深める。

さらに、適応機制や動機づけなどの学習理論などについても、出身国に関わりない共通の学びです。ただし「昇華」「投影」など、日常的には使わない言葉は漢字からも意味が取りにくい可能性があり、具体的なイメージが描けるよう、留学生のこれまでの経験や生活場面での具体的な例を挙げ、関連づけながら理解を深めてもらうとよいでしょう。

③ 解剖生理・人体の構造の理解

解剖生理・人体の構造の理解では、留学生、日本人学生ともに、予備知識が無いということを前提とした授業を行う必要があります。領域の特徴として、基本的には、解剖生理や疾患などについては、覚えることや重要な事柄は決まっているため、反復して理解することが重要です。理解を促進するために、図や動画などの視覚的教材を活用するようにしましよう。

身体各部の名称やポピュラーな疾患名などは、まずは母国語へ翻訳して意味を理解してもらい、その理解をもとに日本語での名称を淡々と覚えていくことが効果的です。養成校によっては、授業中に電子機器(スマートフォンやタブレット、PCなど)の使用を認めていない場合もあるようですが、わからない言葉を調べるのには、これらのツールは大変効果的です。目的に応じて電子機器の使用を認め、授業中にすぐに調べられるようにすることも一手です。些細なことでもつまづいて授業全体が分からなくなることは避けましょう。

また、学生数名のグループを作り、人体の図(名称含め)を書かせたり、その機能や関連する疾患などについて発表させたりすることも効果的です。発表することで、理解が深まったり、自信・意欲の向上につながることを期待できます。



(4) 医療的ケア

① 外国人と日本人の価値観の違いについての理解

「こころとからだのしくみ」と同様に、この領域の特徴として、覚えることや重要な事柄が決まっているため、その点については価値観の違いはあまり関係しません。

また、「医療的ケア」の対象として、さまざまな疾患や障害、年齢(乳児から高齢者まで)の利用者がいることが特徴です。それぞれの人に個別の事情や背景があることは、十分理解してもらう必要があります。一方で、ここには、国による風土・文化的価値観の違いだけでなく、医療水準の違いなども加わり、「尊厳を保持した療養生活」の捉え方が異なる可能性があります。留学生にとって母国と日本の違いもそうですが、日本人の中でも、医療的ケアを受けて療養することについての捉え方は、個別性が大変高い事柄です。これらを十分説明し、理解してもらうようにしましょう。

また、領域「人間と社会」、「介護」との関連性があることもポイントです。教員(講師)間の連携や情報交換によって、各学生の理解度などが共有できるため、積極的に当該領域の教員(講師)と連携して指導していくことが重要です。

② 当該領域で特徴的な言葉

「からだのしくみ」の知識がベースとなるため、その点について、図や動画などの視覚的教材を用いて理解しやすくするよう努める必要があります。また、理解を定着させるため、反復学習と小テストなどでの確認が必要です。重要な部分は音読も効果があります。

「こころとからだのしくみ」同様、疾患名・症状・病態については、漢字を分解して意味を理解しやすいように、段階的な説明を行う必要があります。

特に、呼吸器系、消化器系、バイタルサインなどについては「こころとからだのしくみ」の内容と重複する部分が多いものの、カリキュラムによっては、「こころとからだのしくみ」を学習してから「医療的ケア」を学習するまで時間が経って忘れていたり、理解しきっていないことも容易に想定されます。そのため、既に学んだ事柄として分かっていることを前提にするのではなく、改めて丁寧に指導するとともに、理解度の確認が必要です。

また、以下のような用語は「医療的ケア」の特徴的な言葉として考えることができます。以下、例を挙げます。

複数の症状をひとまとめにした言葉は、その意味とその症状がどのような内容を含んでいるのかを丁寧に説明する必要があります。また、理解できているか質問し、説明させるなどの確認が必要です(総称と個々の症状の理解)。

図表17：「医療的ケア」で特徴的な言葉とその教え方

言葉の種類	言葉の例と教え方
複数の症状をひとまとめにした言葉	<p>これらの言葉については、その意味とその症状がどのような内容を含んでいるのかを丁寧に説明する必要があります</p> <p>(例)呼吸器症状：咳、痰、呼吸困難、息切れ、喘鳴、胸痛 等 (例)消化器症状：悪心・嘔気、嘔吐、腹痛、腹部膨満、下痢、便秘 等</p> <p>また、さらに、これらとともに、発熱などのバイタルサインの変化や、その他症状から、リスクを予測していけるように、関連付けた説明で理解を深めてもらう必要があります。</p>
日常では使用しない医学用語	<p>言葉の意味が理解できるように図や動画などの視覚的教材や器具などを用いてわかりやすく説明することが必要。</p> <p>例：癒着、閉塞、侵襲・非侵襲、浸漬法(乾燥法に対して)</p>

③ 理論と実践を紐づけた理解

医療的ケアに用いる器具類や、人体模型、動画などを、授業中に見せたり触れてもらったりすることで具体的なイメージをつかめるようにすることが必要です。例えば以下のような例が挙げられます。

図表18：具体的なイメージをつかめるようにするための指導の工夫

改善点(回答の多い順)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 模型にチューブを挿入しながら、実施可能な範囲やリスクなどについて示すなど。その時に、各部位の名称も再確認できる。 ・ 無菌的操作の意味を理解してもらうための、鑷子や滅菌手袋の扱い方など。日常生活上での清潔・不潔の考え方と、医療での清潔・不潔の考え方の違いを明確に伝える。日本人学生に対しても同様だが、留学生にはより丁寧に指導する。 ・ 実習先やアルバイト先で関わっている利用者に、医療的ケアを受けている人がいれば、その利用者の場合はどうか、講義内容と結びつけて、理解を深めてもらう。 ・ 人体にチューブが挿入されることのリスクや利用者および家族の心身の苦痛について、自らの言葉にして説明させることで理解を深める。

④ 演習のポイント

手技については、動画などの教材もあるため、何度か練習すれば留学生もすぐに上達するでしょうが、勘の良さや器用さでこなしてしてしまう学生も多いことが想定されます。そのため、一つひとつの手技を行う際の留意点について、「なぜそうしなければいけないのか」や、「それをしなければどのようなリスクがあるのか」なども含めて、**発している言葉の意味や目的などを留学生自ら言葉で説明してもらい、理解度を把握することが重要**です。この際、教員(講師)においては、手順書に沿った声かけが、単なるセリフ(暗記)になってないか、意味が分かって言っているのか等を細かく確認していく必要があります。

また、**演習時のグループ分けは、学生の個性を見て配慮。サポーターな日本人学生と同じグループにすることで、学びが深まったり、意欲が向上する場合があります。**

さらに、**演習指導に非常勤講師など複数の教員(講師)が関わることを想定されるため、指導の仕方や評価を統一することも重要**です。



令和 3 年度 老人保健健康増進等事業
外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業

－検討委員会 委員名簿－ (敬称略、委員長を除き五十音順)

	お名前	ご所属・役職
委員長	井之上 芳雄	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 副会長
委員	石川 由美	浦和大学短期大学部 特任教授
委員	伊藤 優子	北海道医療大学先端研究センター 客員教授
委員	今村 文典	日本介護福祉士会 副会長
委員	岡本 匡弘	京都保育福祉専門学院 副学院長
委員	黒田 英敏	旭川福祉専門学校 副校長
委員	橋本 由紀江	一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事
委員	矢口 浩也	国際厚生事業団 国際・研修事業部 部長

－作業部会 委員名簿－ (敬称略、部会長を除き五十音順)

	お名前	ご所属・役職
部会長	黒田 英敏	旭川福祉専門学校 副校長
委員	石川 由美	浦和大学短期大学部 特任教授
委員	伊藤 優子	北海道医療大学先端研究センター 客員教授
委員	岡本 匡弘	京都保育福祉専門学院 副学院長
委員	笹沼 昌子	国際厚生事業団 国際・研修事業部 部長代理
委員	品川 智則	東京 YMCA 医療福祉専門学校 専任教員
委員	嶋田 直美	和歌山 YMCA 国際福祉専門学校 主任教員
委員	橋本 由紀江	一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事

オブザーバー：厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

事務局：公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

厚生労働省 老人保健健康増進等事業

「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」

介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導のポイント

令和 4 年 3 月発行

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-3-10 藤和シティコープ御茶ノ水 2 階

TEL : 03-3830-0471 FAX : 03-3830-0472